

建築教育ニュース

1999. 11

東日本建築教育研究会

目 次

1. 会長あいさつ……………会 長…稲見 辰夫… 1
2. 平成10年度事業および会計（決算）報告……………事 務 局… 2
3. 平成11年度事業計画・会計（予算）および役員名簿……………事 務 局… 4
4. 平成11年度総会・研究協議会報告……………秋田県立大曲工高…高橋 義則… 8
5. 夏期研究協議会に参加して……………静岡県立天竜林業高…大野 悦夫…11
6. 製図分科会報告……………主査 市川工高…菊池 貞介…13
7. 計画分科会報告……………主査 小田原城北工高…大庭 孝雄…17
8. 構造分科会報告……………主査 葛西工高…大久保 健…21
9. 施工分科会報告……………主査 日工大付東京工高…内藤美雪丸…25
10. 製図コンクール運営委員会報告……………委員長 関東第一高…塩澤 泰…29
11. 資格取得推進委員会報告……………委員長 春日部工高…長島 佳久…33
12. 岩手県工業高等学校建築教育の現況……………大船渡工高…達谷窟敬祐…34
13. 栃木県工業高等学校建築教育の現況……………宇都宮工高…増渕 政幸…36
14. 千葉県工業高等学校建築教育の現況……………敬愛学園高…鈴木 豊…38
15. 愛知県工業高等学校建築教育の現況……………碧南工高…石川 博武…40
16. 事務局ニュース・報告……………事務局長 墨田工高…小沢 宏…42

あ と が き

1. あいさつ

会長 東京都立墨田工業高等学校長

稲見辰夫

平成11年度第49回東日本建築教育研究会秋田大会は、去る6月17日、18日秋田市の「秋田ビューホテル」において開催された。総会において承認を受け、会長をお引き受けいたしました。微力ではありますが、事務局一同、努力してまいりますので、会員の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

総会・研究協議会は、多数の会員参加のもと、熱心な討議が行われ多大の成果が得られたものと確信しております。なかでも、マインメンタルヘルス研究所長の山崎友丈氏の講演「思春期の心の理解」は、保護者や生徒理解の上で大変役に立つものであった。また、陸奥の小京都・角館の研究視察では、東北地方の武家の建物を見ることが出来、大変有意義なものでした。

特に、文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官の佐藤義雄先生には、大変お忙しい中ご出席下さいまして、新たに発表された学習指導要領の概要と、平成12年度から導入される移行措置について丁寧な説明がありました。会場からも多くの質問があり新学習指導要領に対する関心の高さを伺うことが出来ました。

このように充実した研究大会とすることが出来ましたのも秋田県の方々の綿密な計画と温かいご配慮の賜と存じます。心からお礼を申し上げます。

さてここで、立場を変えて全国の工業高校の状況について話したいと思います。各地の工業高校は大変厳しい状況にありますが、その中でもがんばって、元気のよい工業学校の共通項について紹介します。

まず、いずれの学校でも地域の信頼の回復する事から始まっています。そのために、

- ① 地域との連携を密に行い、地域に無くてはならない学校である存在感を示す。
幼稚園児、小学生、中学生に対するおもちゃ修理教室、ものづくり出前授業、他の高校との交換授業の実施、町の仕事を請け負う、企業との共同研究(インターンシップ)
- ② 礼儀作法の徹底。あいさつの励行、頭髪、服装等の指導の徹底。
- ③ 資格取得の徹底 生徒の個性を発見し、思い切り伸長させる。放課後の補修励行
- ④ 就職・進学の実績 工業高校で就職出来ないことは、致命的である。企業を回る。
推薦入学枠の増大(徳島大9名)
- ⑤ 自分の学校に誇りを持っている。

等が、共通項です。会員の皆様の学校で早速実施してみてください。

2. 一平成10年度 事業報告一

1 総会・研究協議会の実施

期 日：平成10年6月11日(木)～12日(金)

会 場：「ホテルライフオート札幌」

〒064-0810 札幌市中央区南10条西1丁目 (Tel 011-521-5211)

1) 総会……………第1日(6月11日)

2) 研究協議 I (分科会)

共通テーマ 「厳選に伴う内容の整理」

・製図・計画・構造・施工の4分科会に分かれて協議会を実施。

3) 教育懇談会

4) 研究協議 II (全体会) ……第2日(6月12日)

・研究発表 「北海道の建築教育」

I 北海道札幌工業高等学校 高崎 格

II 北海道室蘭工業高等学校 山本 悦徳

III 北海道札幌工業高等学校 伊藤 茂樹

・分科会報告 (各分科会主査)

・質疑応答

5) 講評 文部省教科調査官 佐藤義雄先生

6) 研究視察

北海道開拓の村

2 夏期研究協議会(製図分科会主催)

内 容：「JW-CADの基本操作の体験と授業への活用」

期 日：平成10年8月4日(火)、5日(水)

会 場：千葉県立市川工業高等学校

千葉県市川市平田3-10-10 (Tel 047-378-4186)

3 常任理事会・委員会等

1) 理事会：理 事 会 平成10年6月11日 於「ホテルライフオート札幌」会議場
常任理事会 平成10年9月21日
平成10年12月4日 於都立蔵前工業高等学校
平成11年3月19日

2) 主査会：常任理事会の開催日及び平成10年8月4日
平成11年2月6日 於都立蔵前工業高等学校
平成11年3月31日

3) 分科会：各分科会主査により随時

4) 委員会：各委員会委員長により随時

教 材 委 員 会 本会が関与する出版物の検討

製図コンクール運営委員会 製図コンクールの実施(第17回)

編 集 委 員 会 名簿、建築教育ニュースの発行

資 格 取 得 推 進 委 員 会 建築施工技術者試験実施に向けて、試験後のアンケート調査

創立50周年記念事業委員会 各種規則・実施要項の決定(第2回常任理事会で承認)

会員校に賛助金募集の依頼書類発送(平成10年12月末)

記念誌編集委員会の開催 「記念誌」編集内容の打ち合せ

会員校紹介の原稿依頼状(写真等)の作成

「製図コンクール作品集」の編集方針確認

4 事務局

関係諸団体との連絡調整

全国工業高等学校長協会

標準テスト作成委員の推薦(委託)

全国高等学校建築教育連絡協議会

建築施工技術者試験の運営協力

西日本高建築連盟

総会・研究協議会に代表派遣

北海道建築教育研究会

総会・研究協議会に代表派遣

総会・研究協議会開催資料等の作成・発送

理事会の開催・各分科会、各委員会の連絡調整

以上

—平成10年度 会計決算報告—

平成11年4月1日

会長 北 島 敬 己

会計 事 務 局

下記の通り御報告いたします。

1. 収 入 額

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
会 費	924,000	924,000	0	154校分 (6,000円×154校)
雑 収 入	50,453	50,402	-51	全工協助成金、銀行利息
印 税	130,000	158,592	28,592	基礎問題、図集、法規学習ノート
繰 越 金	121,547	121,547	0	
合 計	1,226,000	1,254,541	28,541	

2. 支 出 額

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要	
1) 事 業 費	900,000	859,980	40,020		
内 訳	総 会 費	280,000	240,580	39,420	協議会補助、本部経費等
	資 料 費	240,000	239,400	600	資料、ニュース印刷費等
	講習会補助	60,000	60,000	0	夏期講習会 (製図) 補助
	出張補助費	120,000	120,000	0	西日本、北海道出張補助
	分科会費	200,000	200,000	0	4分科1委員会 各40,000円
2) 運 営 費	295,000	269,990	25,010		
内 訳	役員会議費	15,000	15,000	0	常任理事会・主査会等
	通 信 費	140,000	114,990	25,010	総会通知、ニュース発送等
	雑 費	10,000	10,000	0	事務用品代
	事 務 費	10,000	10,000	0	事務局運営費
	名 簿 費	120,000	120,000	0	名簿作成費
3) 予 備 費	31,000	0	31,000		
4) 合 計	1,226,000	1,129,970	96,030		

3. 差引残高 1,254,541 - 1,129,970 = 124,571円 収入増 28,541円

4. 次年度繰越 124,571円 支出減 96,030円

会計監査の結果、収支、帳簿等相違ないことを認めます。

平成11年5月14日

会計監査 前田 潔
角田 勝男

3. 一平成11年度 事業計画一

1 総会・研究協議会

期 日：平成11年6月17日(木)～18日(金)

会 場：「秋田ビューホテル」

〒010-0001 秋田市中通り2-6-1 (Tel 018-832-1111)

1) 総会……………第1日(6月17日)

2) 講演

演題『思春期の心の理解』 講師 マイノメンタルヘルス研究所所長
山崎 友丈氏

3) 研究協議 I (分科会)

共通テーマ 「21世紀の建築教育のあり方」

・製図・計画・構造・施工の4分科会に分かれて協議会を実施する。

4) 教育懇談会

5) 研究協議 II (全体会)……………第2日(6月18日)

・研究発表 「建築教育実践」

秋田県立大曲工業高等学校 黒澤 一元 先生

・分科会報告(各分科会主査)

・質疑応答

6) 講評 文部省教科調査官 佐藤義雄先生

6) 研究視察

みちのく小京都【角館】

2 夏期研究協議会(計画分科会主催)

内 容：「建築設計」・「建築史」講習並びに見学会

期 日：平成11年7月23日(金)、24日(土)

会 場：東京都立蔵前工業高等学校

東京都台東区蔵前1-3-57 (Tel 03-3862-4488)

3 特別講習会(製図分科会主催)

内 容：「JW-CAD」実技講習会

期 日：平成11年7月27日(火)、28日(水)

会 場：東京都立蔵前工業高等学校

東京都台東区蔵前1-3-57 (Tel 03-3862-4488)

3 理事会・委員会等の開催

会の構成

1) 理 事 会：全役員、県理事で総会開催日に年1回の開催予定

常任理事会：全役員、常任理事で年3回～4回開催予定

2) 主 査 会：会長、副会長、分科会主査、事務局長、会計

3) 各 分 科 会：分科会主査の召集により随時

4) 各 委 員 会：委員長の召集により随時

役員、委員の名簿は別紙

5) 特別委員会

50周年記念事業特別委員会：委員長の召集により随時

栃木大会に向けて準備を進める。

記念誌の原稿依頼及び編集・発行

作品集の発行準備(図面整理)と原稿依頼

4 刊行物 …… 建築教育ニュース 1999年号(11月発行予定)

会員名簿発行(6月発行)

各種参考書

5 コンクール・作品展等

第18回製図コンクール 作品受付 平成11年11月5日(金)～11日(木)

第4回CAD作品展 作品受付 平成11年5月15日(土)～20日(木)

詳細及び申込用紙は各校に配布済

6 その他 関係諸団体との連絡調整

以上

—平成11年度 予 算—

平成11年4月1日

会長 北 島 敬 己

会計 事 務 局

1. 収 入 額

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	924,000	154校分 (6,000円×154校)
雑 収 入	50,429	全工協助成金、利息
印 税	170,000	基礎問題、図集、法規学習ノート・建築施工技術者試験テキスト等
繰 越 金	124,571	平成10年度繰越金
合 計	1,269,000	

2. 支 出

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事 業 費	945,000	
総 会 費	320,000	総会補助、協議会補助、本部経費等
資 料 費	240,000	総会資料、ニュース等印刷費
講 習 会 補 助	60,000	夏期講習会 (計画) 補助
出 張 補 助 費	125,000	西日本、北海道出張補助
分 科 会 費	200,000	4分科会・1委員会 各40,000円
2) 運 営 費	295,000	
役 員 会 議 費	15,000	理事会、主査会等
通 信 費	140,000	総会通知、ニュース発送通信費等
雑 費	10,000	事務用品代
事 務 費	10,000	事務局運営費
名 簿 費	120,000	名簿作成費 (不足分は広告費で支出)
3) 予 備 費	29,000	
4) 合 計	1,269,000	

—平成11年度 役員名簿—

1. 会 長 東京都立墨田工業高等学校
2. 副 会 長 秋田県立大曲工業高等学校
栃木県立宇都宮工業高等学校
神奈川県立神奈川工業高等学校
東京都立蔵前工業高等学校
3. 事務局長 東京都立墨田工業高等学校
4. 会 計 東京都立墨田工業高等学校
5. 常任理事

稲見 辰夫 (会 長・墨田工)
 鈴木 良治 (副会長・宇都宮工)
 稲葉 一八 (校 長・岡崎工)
 松井 貞二 (副会長・蔵前工)
 大庭 孝雄 (計画主査・小田原城北工)
 内藤美雪丸 (施工主査・日工大付東京工)
 鈴木 健 (編集委員長・田無工)
 奥野 繁 (北海道・苫小牧工)
 岩見 立也 (小石川工)
 前田 潔 (葛西工)
 田辺 登 (昭和第一学園)
 大間 俊彦 (関東第一)
 遠山 時幸 (安田学園)
 本田 友一 (川越工)
 雨宮 行光 (山梨・甲府工)
 江原 哲二 (藤岡工)
 古賀 昌之 (全高建協・墨田工)
 小沢 宏 (東京・事務局長・墨田工)

6. 都道県理事

北海道 奥野 繁 (苫小牧工)
 青 森 岩城 伸行 (十和田工)
 宮 城 西尾 正人 (仙台工)
 山 形 深瀬 光昭 (山形工)
 栃 木 増渕 政幸 (宇都宮工)
 埼 玉 香山 厚雅 (春日部工)
 千 葉 鈴木 豊 (敬愛学園)
 神奈川 佐藤 克典 (神奈川工定)
 新 潟 景山 常樹 (新潟工)
 富 山 安川 省司 (富山工)
 福 井 谷 康博 (武生工)
 愛 知 石川 博武 (碧南工)

7. 会計監査 神奈川県立神奈川工業高等学校
東京都立蔵前工業高等学校

8. 各分科会委員

- 1) 製図分科会： 主査・菊池 貞介 (市川工)

土田 裕康 (蔵前工)
 塩澤 泰 (関東第一)
 古賀 昌之 (墨田工)

校長 稲見 辰夫
 校長 三浦 春夫
 校長 鈴木 良治
 教諭 山崎 敏弘
 教諭 松井 貞二
 教諭 小沢 宏
 教諭 米沢 良慈

三浦 春夫 (副会長・大曲工)
 曾我 亮二 (校長・高崎工)
 山崎 敏弘 (副会長・神奈川工)
 菊池 貞介 (製図主査・市川工)
 大久保 健 (構造主査・葛西工)
 塩澤 泰 (製図コンクール運営委員長・関東第一)
 長島 佳久 (資格取得推進委員長・春日部工)
 池上 信幸 (蔵前工定)
 太田 尚 (小石川工定)
 高橋 康宏 (田無工)
 遠藤 勇 (日工大付東京工)
 千葉 一雄 (東工大附工)
 鈴木 豊 (千葉・敬愛学園)
 増渕 政幸 (栃木・宇都宮工)
 佐藤 克典 (神奈川・神奈川工定)
 平野 和成 (静岡・島田工)
 米原 良慈 (会計・墨田工)

北海道 対馬 誠 (函館工)
 岩 手 達谷窟敬祐 (大船渡工)
 秋 田 高橋 義則 (大曲工)
 福 島 馬場 彦吉 (郡山北工)
 群 馬 豊島 卓司 (前橋工)
 茨 城 辻 昌良 (大宮工)
 東 京 小沢 宏 (墨田工)
 山 梨 雨宮 行光 (甲府工)
 長 野 大脇 洋三 (長野工)
 石 川 押野 慶祥 (小松工)
 静 岡 平野 和成 (島田工)
 岐 阜 町野 康彦 (大垣工)
 教諭 角田 勝男
 教諭 大橋 正俊

福島 勝 (日工大付東京工)
 筒井 齐 (向の岡工)
 角田 勝男 (神奈川工)

- 長島 佳久 (春日部工) 金井 孝雄 (高崎工定)
遠藤 悟 (田無工) 黒崎 利之 (真岡工)
橋本 政美 (昭和第一学園) 諏佐 真一 (小石川工定)
- 2) 計画分科会： 主査・大庭 孝雄 (小田原城北工)
大間 俊彦 (関東第一) 大橋 正俊 (蔵前工)
池田 健司 (大宮工) 江口 敏彦 (市川工)
荒木 宏道 (館林商工) 酒巻 仲生 (葛西工)
岩上 成輝 (川崎総合科学) 中島 久男 (横浜工定)
高橋 和久 (藤沢工) 三野輪雄大 (春日部工)
- 3) 構造分科会： 主査・大久保 健 (葛西工)
青柳 昭 (市川工) 松井 貞二 (蔵前工)
栗原 博 (墨田工定) 遠山 時幸 (安田学園)
亀山 和由 (関東第一) 西村 文雄 (川越工)
益野 英昌 (仙台第二工) 福住 英毅 (神奈川工)
斉藤 延夫 (宇都宮工) 今井 賢治 (前橋工)
雨宮 行光 (甲府工) 池上 信幸 (蔵前工定)
沢野 茂 (田無工)
- 4) 施工分科会： 主査・内藤美雪丸 (日工大付東京工)
堀口 武 (武蔵越生) 小池 逸朗 (甲府工)
佐藤 克典 (神奈川工定) 千葉 一雄 (東工大附工)
網中 正仁 (桐生工) 高橋 康宏 (田無工)
山崎 敏弘 (神奈川工) 田島 昇 (大宮工)
丸山 悟 (葛西工) 小嶋 計一 (宇都宮工)
田辺 登 (昭和第一学園) 飴谷 知久 (安田学園)
伊藤 彰人 (鶴見工定) 塩山 昇 (熊谷工)
9. 教材委員会： 委員長・松井 貞二 (副会長)
山崎 敏弘 (副会長) 菊池 貞介 (製図主査)
大庭 孝雄 (計画主査) 大久保 健 (構造主査)
内藤美雪丸 (施工主査) 小沢 宏 (事務局長)
10. 編集委員会： 委員長・鈴木 健 (田無工)
大間 俊彦 (関東第一) 遠藤 勇 (日工大付東京工)
古賀 昌之 (墨田工) 武田 明広 (市川工)
伊藤 和生 (葛西工)
11. 製図コンクール運営委員会： 委員長・塩澤 泰 (関東第一)
土田 裕康 (蔵前工) 古賀 昌之 (墨田工)
筒井 斉 (向の岡工) 福島 勝 (日工大付東京工)
角田 勝男 (神奈川工) 菊池 貞介 (市川工)
金井 孝雄 (高崎工定) 長島 佳久 (春日部工)
遠藤 悟 (田無工) 橋本 政美 (昭和第一学園)
黒崎 利之 (真岡工) 諏佐 真一 (小石川工定)
(計画) 大間 俊彦 (関東第一) 岩上 成輝 (川崎総合科学)
(構造) 大久保 健 (葛西工) 青柳 昭 (市川工)
(施工) 伊藤 彰人 (鶴見工定) 飴谷 知久 (安田学園)
12. 資格取得推進委員会： 委員長・長島 佳久 (春日部工)
山崎 敏弘 (副会長) 松井 貞二 (副会長)
小沢 宏 (事務局長) 菊池 貞介 (製図主査)
大庭 孝雄 (計画主査) 大久保 健 (構造主査)
高橋 義治 (京葉工) 三原 斉 (日工大付東京工)
石井 直樹 (高崎工) 古賀 昌之 (全高建協・墨田工)

4. 平成11年度 総会・研究協議会報告

秋田県立大曲工業高等学校 高橋義則

平成11年度東日本建築教育研究総会・研究協議会が6月17日～18日の2日間にわたり秋田市の「秋田ビューホテル」を会場として、文部省佐藤教科調査官をはじめ来賓・会員合わせて、170名の参加により盛大のうちに開催されました。

1日目：午前中理事会、午後から開会式・総会が開催され、三浦春夫大会実行委員長、北島敬己会長の挨拶に始まり、大会実施要項に従い議事案件が審議されました。役員の開選においては、新会長に稲見辰夫全国工高長協会理事長が承認されました。

研究協議会Ⅰ（分科会）に先立ち今年度は本部事務局主催で特別講演会が行われ、演題『思春期の心の理解』、講師：マインメンタルヘルス研究所所長『山崎友丈氏』多様化した現代高校生の質、行動の面から、「自立」をキーワードに、①登校拒否・不登校をストレス耐性から検証、②自立に向かわせる教育、③気質・性格・人格、④建築教育（設計製図・実習など）への具体的提案などについて、講演がなされました。日頃悩まされている現在高校生の実像が見えて来た大変意義深い講演でありました。今後は私達がどのように認識して、教育現場にどのように活かすかが課題ではないでしょうか。

各分科会では、共通テーマ『21世紀の建築教育のあり方』の元に製図分科会、計画分科会、構造分科会、施工分科会に分かれ、各会でサブテーマを持ち研究協議会が行われた。

6時30分からは会費制による教育懇談会が実施された。心配された参加者も140名を越え予想以上に盛会で情報交換、教育や建築談義に花を咲かせて、親睦が計られた。

2日目：研究協議会Ⅱ（全体会）の研究発表会では三浦春夫大会実行委員長から発表者の紹介があり、『建築教育実践』と題し、秋田県立大曲工業高等学校教諭 黒澤一元先生の発表があった。分科会報告は製図主査（菊池貞介・市川工高）、計画主査（大庭孝雄・小田原城北工高）、構造主査（大久保 健・葛西工高）、施工主査（内藤美雪丸・日工大付東京工高）の各氏より前日からの協議内容のまとめと分科会の年間活動内容について報告があった。

分科会報告後は、文部省教科調査官佐藤義雄先生の講評で高等学校学習指導要項改定の要点について講話（要約は後記）がありました。

閉会式では稲見辰夫新会長から「盛大で充実した大会であった」と感想を述べられ、次期開催地の鈴木良治宇都宮工業高等学校長からは来年度の50回記念大会は栃木県の鬼怒川温泉に於て、7月26日・27日に実施予定であり、多くの先生方の参会を呼びかけられました。最後に、三浦春夫大会実行委員長のお礼の挨拶で2日間の協議を閉じました。

午後の研究視察は78名が2台のバスに分乗して、『みちのく小京都・角館』を見学。心配された雨も上がり、程好い気温の中で「藩政時代から受け継がれてきた町並みと文化」を見学し全日程を無事終了できました。絶大なるご協力に心から感謝申し上げます。

第49回 東日本建築教育研究会秋田大会実施要領

期 日 : 平成11年6月17日(木)~18日(金)

会 場 : 『秋田ビューホテル』 秋田市中通2-6-1

第一日目 6月17日(木)

理事会受付 …………… 9:30~10:20

理 事 会 …………… 10:30~12:00

来賓・会員受付 …… 12:00~12:50

1. 開会式 …………… 13:00~13:50

(1) 開会のことば

(2) 挨拶

(3) 来賓祝辞並びに紹介

(4) 閉会のことば

2. 総 会 …………… 14:00~15:20

(1) 開会の挨拶

(2) 議長選出

(3) 議 事

ア. 平成10年度事業報告並びに決算報告

イ. 会計監査報告

ウ. 会則改正

エ. 役員改選(感謝状贈呈)

オ. 平成11年度事業計画並びに予算案

カ. 各委員会報告

キ. その他

(4) その他

(5) 閉会の挨拶

3. 講演会 …………… 15:30~16:30

講演者紹介 ……会長 稲見 辰夫

演 題: 『思春期の心の理解』

講 師: マインメタルヘルス研究所所長

山崎 友丈 氏

4. 研究協議会 I (分科会) ……16:40~18:00

共通テーマ: 『21世紀の建築教育のあり方』

4分科会場: 【製図分科会】 …… 4 F 飛翔 V

【計画分科会】 …… 4 F 光琳

【構造分科会】 …… 4 F 飛翔 VI

【施工分科会】 …… 5 F 百合

5. 教育懇談会 …… 18:30~

秋 田 大 会 実 行 副 委 員 長	北林 栄作
秋 田 大 会 実 行 委 員 長	三浦 春夫
東 日 本 建 築 教 育 研 究 会 会 長	北島 敬己
秋 田 県 高 等 学 校 教 育 研 究 会 工 業 部 会 会 長	近 稔
文 部 省 初 等 中 等 教 育 局 職 業 教 育 課 教 科 調 査 官	佐藤 義雄
秋 田 県 教 育 委 員 会 教 育 長	小野寺 清
社 団 法 人 全 国 工 業 高 等 学 校 長 協 会 理 事 長	稲見 辰夫
西 日 本 工 高 建 築 連 盟 会 長	杉田 一仁
秋 田 県 産 業 教 育 振 興 会 会 長	辻 兵吉
社 団 法 人 秋 田 県 建 設 業 協 会 会 長	酢屋 潔
社 団 法 人 日 本 建 築 学 会 東 北 支 部 秋 田 支 所 長	内田 純夫
社 団 法 人 秋 田 県 建 築 士 会 会 長	中村 豪
社 団 法 人 秋 田 県 建 築 士 事 務 所 協 会 会 長	斎藤 清
秋 田 県 教 育 委 員 会 参 事 兼 高 校 教 育 課 長	伊藤 甫
秋 田 県 教 育 委 員 会 高 校 教 育 課 指 導 主 事	西 聡
秋 田 大 会 実 行 副 委 員 長	北林 栄作



第二日目 6月18日(金)

1. 研究協議会Ⅱ(全体会) 9:00~10:20
(1) 研究発表 (9:00~9:40)
『建築教育実践』 秋田県立大曲工業高等学校教諭 黒澤 一元
(2) 分科会報告 (9:50~10:20)
【製図分科会】 【計画分科会】 【構造分科会】 【施工分科会】
- 2 講 評 10:30~10:50
文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官 佐藤 義雄
- 3 閉 会 式 11:10~11:30
(1) 閉会のことば 秋田大会実行副委員長 梅川 信彦
(2) 会長挨拶 東日本建築教育研究会会長 稲見 辰夫
(3) 次期開催県代表挨拶 宇都宮工業高等学校長 鈴木 良治
(4) 閉会の挨拶 秋田大会実行委員長 三浦 春夫
- 4 諸連絡・昼 食 11:30~12:20
- 5 研究視察 12:30~15:30

12:30発 バス 14:00着 15:20発 バス 15:30着
ホテル ————— みちのく小京都 角館(自由見学) ————— JR角館駅(解散)
(武家屋敷・伝承館・平福記念美術館 等)

【文部省教科調査官佐藤義雄氏講和要約】

- 21世紀の建築教育のあり方
 - 1)全国的研究組織をつかって、21世紀の建築教育に関する議論を重ね、建設省等の関係省庁と話し合うことが必要である。
 - 2)15才から学ぶメリットを建築教育に当てはめると、経験を生かして、それを新しいものづくりに生かしていくことが大切である。
- 新指導要領の基本的なねらい
 - 1)生徒の実態と先生方の考え方で内容の重点化を行い、メリハリのある授業スタイルで展開してもよい。
 - 2)完全学校週5日制の下で「ゆとり」を確保する中で、「特色ある教育」を展開し、生徒に自ら学び考える「生きる力」を育成することである。工業にとって生きる力とは、職人として自立し生きていくという力である。
- 新指導要領の要点
 - 1)内容に「総合的な学習の時間」を加え、卒業までに105~210時間(3~6単位)を全員に履修してもらう。工業高校では、課題研究の履修をもって総合的な学習の時間と同等の成果が認められる場合は、一部または全部を代替してもよい。
 - 2)専門教科に「情報」を新設したが、「情報技術基礎」と代替してよい。
 - 3)卒業の条件は、3年以上、74単位以上である。
 - 4)専門科における専門教科・科目の最低必修単位数は25単位以上で、標準が34または36単位、42単位は組めそうである。
 - 5)建築のプロになるための基礎・基本には二級建築士や建築施工管理技士があり、将来のスペシャリストとして必要とされるその基礎・基本を、3年間しっかりやるのが大切である。
- 改訂のポイント(技術革新・国際化・環境問題への対応)と移行措置
 - 1)今回特に、「〈環境に配慮しつつ〉、工業技術の諸問題を主体的に、合理的に解決し、〈社会〉の発展を図る〈創造的な〉能力と実践的な態度を育てる」と改めた。(〈〉が改めた部分)
 - 2)科目数を74科目から60科目としたが、建築はゼネラリストの世界なので、5科目体制である。
 - 4)学校設定科目には、学校長の判断で学校の運営方針に合った科目を置くことができる。
 - 5)実習の7/10を現場実習で実施してよいとしていたものを、今回10/10にした。
 - 6)工業の原則履修科目は、平成12年度入学者から工業基礎、課題研究、情報技術基礎の3科目になる。

5. 夏期研究協議会に参加して

静岡県立天竜林業高等学校 建築デザイン科教諭 大野 悦夫

平成11年度東日本建築教育研究会夏期研究協議会が、7月23日、24日の2日間、鹿島建設(株)の鹿島K Iビル及び東京都立蔵前工業高等学校において開催されました。今年の計画部会の内容は、建築計画と設計および建築史に関する見学会という事で、首都圏での建築計画のルーツや設備設計の現状、そして東京の建築史等の見学など多くの企画が盛り込まれておりましたので、是非この機会に、と思い研究会に参加させていただきました。

7月23日、連日雷雨に見舞われ不順だった都内の天候も朝からカラリと晴れ渡り、まさに夏期研究会にふさわしい日よりとなりました。3年ぶりの東京も、やはり暑いというイメージで東京駅を降りて地下鉄駅へ、そして千代田線赤坂駅を出ると、なんと最近マスコミ等で話題になっている、T放送局のビルが目の前に現れる。いつの間に新しくなったんだろう、などと感心して歩いていると本日午前中の研究会場である鹿島K Iビルに到着。予定時刻より若干早く着いたのでエントランスホールのソファに座り周辺を眺めていると、そこに続くアトリウムがトップライトの光を受け、妙に自然環境をかもしだしていることに気が付きました。受け付けを済ませ会議室に入り着席、さあ今から研究会の始まりだ、と気持ちを引き締め、どのような講演内容か期待心が高まる、司会者の一声により開校式が始まり、2日間の夏期研究会がスタートしました。開講式では、開会のことば、会長挨拶、日程説明などの定例進行の後、早速講演会に入りました。

講演会は「建築意匠設計」という内容で、鹿島建設の玉井氏による講演で、とくに自社設計部におけるCAD導入の基本理念と設計思想、また社内でのCADオペレーター教育の方法や、DB-CAD(データベースCAD)の概念やCADの属性や共有化のしくみ、3DCADのメリットなどの内容でした。特に社員へのCAD教育では、インターネット、ホームページといったより多くの情報の中で各自のセンスを見出し、みがき、発展させていく方針が採られていました。その話の中で、CADを使えばセンスの無い者でも図面やパースが描けるが、より多く経験することによりさらにセンスが身につく。センスのある者でも使わなければ衰退する。したがって常に自分を鍛えることだ。という言葉が非常に印象的でした。今、学校での製図授業そしてCAD製図を考えたときどうだろう。私たちはどうしても手書き製図が基本だ、という概念が頭を離れないわけですがこれから企業で働く、今の工業高校生にとってCAD製図の在り方をよく考える時期に来ていることを痛感しました。

鹿島建設では現在ハンガリーのグラフィックソフトと呼ばれるCADソフトが使われているようですが、このソフトは導入にあたり大変苦労されたもので、数々の条件をクリアでき将来性も考慮し、あらゆる面に対応が可能な、CADソフトだそうです。やはりこのあたりは大手建設企業だけであり、図面から構造計算、設計計画といった一環したCAD

設計システムの構想がなされていました。

講演終了後、このK Iビルの施設見学をさせていただきましたが、実に驚いたことにこのビルは業務効率を高めるために人間環境に基づいて建築された、インテリジェントビルだったのです。朝ホールに入った時、妙に落ち着いた気分にさせてくれたのはこのためだったのかと、この時初めて知りました。このアトリウムは風が香り、蝶が舞う、そんな雰囲気の中での商談や設計打ち合せといった、新しいオフィス環境を追求して設計されたそうです。空調はもちろん、音響、そして微香設計まで考慮されていて。さすが我が国トップクラスの建設会社のオフィスビルだ、と思わずにはいられませんでした。そのほかにも耐震設備、ルーフガーデン、周辺との外観調和など随所に人間と環境の調和を考えた設計がなされていました。

さて、そんなインテリジェントビルを後にして、午後の研究会場であります都立蔵前工業高校に向かいました。途中電車を乗り継ぎ、昼食を済ませ、無事会場に着きました。

午後からの講演は、三建設備工業(株)の鈴木氏による「施工会社の建築設備設計の現状」という事で、特に施工現場からみた設備設計についての内容でした。低迷が続く建設業界ですが、建築設備業者もいかにそこを抜け出すか懸命の様子がわかります。もちろん設計管理においても主な基本テーマが掲げられ、一つひとつの工事が行われていますが、私たち人間と環境が最も親密な関係がこの建築設備関係だと思います。特に都会では排気ガスやスモッグなど、かなり早い時期からその対策に頭を痛めてきたとは思いますが、ここへきてあらためて地球規模での環境対策の必要性というものが叫ばれ、ISO規格、リニューアル、コージェネ、新冷媒など、設備施工会社での大変さは痛いほどよくわかりました。大気汚染、温暖化、オゾン層、環境破壊などと頭を廻らせていると、午後の講演も終わり本日最後の予定であります見学会になりました。

見学は江戸東京博物館です。4本の大きな柱と2本の大梁に支えられた建物はまるでロボットのような感じです、その中に吸い込まれるように、まるで300年の歴史を遡るかのような長いエスカレーターを昇ると、そこには日本橋と江戸の町並みが展開されていて、その時代にタイムスリップしたような錯覚さえ感じました。展示物がというよりは、建物の平面計画が順序よく整えられてその時代の特徴などが大変わかりやすく表現されていて、当時の江戸の都市(町)計画の概要を知ることができました。

研究会2日目。今日は見学会のみという事で随分と気持ちは楽になりました。都会に行く機会の少ない私には、このような見学会も有り難く、雷門、浅草寺などの建築物を準備していただいた資料を見ながら見学しました。そしてその後水上バスで普段とは違った目線にて墨田川に架かる数々の橋の歴史をたどりながら下り、美しく造園計画された浜離宮を見学しながら閉講式を迎え2日間の研究会を閉じました。

最後に、今回の研究会にあたり会場設営や資料作成など、ご苦勞されました担当校の先生方に対しまして感謝を申し上げまして、雑筆ながら参加感想といたします。

6. 製図分科会報告

千葉県立市川工業高等学校 菊池 貞介

前回の北海道大会そして今年度の秋田大会では、限られた時間の中で最大限の意見交換ができるようにと、製図分科会に参加される先生方へ事前にレポート提出を求めて大変ご迷惑をかけましたが、委員の先生方の研究も加えて大変貴重な資料が集まり、深く感謝申し上げます。

◇指導現場の問題点と新しい教育課程への期待

新指導要領の告示を前後にしたこの期間は、「今後3年先、5年先のことを考えて…」と現場での問題点を取り上げながら難しくとも楽しい討議を重ねられてきたように思う。

事例研究等で既に指摘されている生徒の質の変化や、不本意入学の増加傾向、また専門教育の時間的な縮減の問題は、ともすると指導の限界を感じさせるものであり、多くの先生方が共通に心配されている点であった。

一方、新指導要領にみられる科目選択の幅を広げる方向性が示されたことや、「総合的な学習の時間」の多面的なアプローチを求める姿勢は、教育課程の枠組を大きくとらえ直しつつ取り上げるテーマの自由度を一層高めていると考えられる。例えば、社会的に関心の高まっている「高齢化」、「バリアフリー」、「環境」への視点は、人間の生活空間や社会・環境といった建築学本来のフィールドにおいて身近な空間に着目させることから始まる展開を約束し、生徒にとって親しみやすく楽しい建築教育を考えることができよう。

分科会では「楽しくなる製図教育」のテーマのもと自由設計や模型制作の展開が、またCAD作品にも地域の施設研究など工夫を重ねた指導例がいくつも見る事ができた。特に大会の分科会で発表された加倉井先生（敬愛学園）の取り組みは、「建築と子供たち」と題して小学生を対象にした建築教育の実践であり、建築教育の可能性を拓げていくものとして強く印象に残り今後の展開が注目される。検討過程の中で確認されたことの一つに、「製図」教育が一定段階の技能修得を重視した指導目標（例えば2級建築士の製図）から、自由設計や卒業設計のように創造的な学習展開となる「建築設計製図」として今一度とらえ直すことの大切さがあった。先生方の新しい授業展開例の中にこれからの製図教育をみることができたように思う。

生徒の興味関心に多様な面が現れてきていることから、各単元や科目の到達目標を一つに限定すべきものでもなく、いくつかの段階の設定をすることとなって、少々取り組みにくい印象を受ける。ところが、すでに実習や工業基礎では実質的にチームティーチングを行っており、どの学校でも効果的な学習方法として定着している。担当時間の再調整をしなければならぬが、「製図」もそれらの指導形態にならうことはそう困難なことでもないように思われる。肝心なのは学習の動機付けをどのようにするかであり、また感性を磨

させる指導展開に最大の関心が払われるべきであろう。

車椅子に乗って廊下を移動するだけでも体の不自由な隣人への眼差しと、建築的には動作寸法の理解が確実なものになり、その後の設計製図に確かな知識を提供することは容易に想像でき「建築」で考える楽しさをもたらしてくれるように思う。

今後も、他の学科にはない「楽しい建築教育」を考えていきたい。

◇CAD作品展について

作品募集の案内を年度当初の製図コンクールと同封させていただいた。第4回目の今回は、協賛企業のご協力も得られて、意欲喚起を求める意見に応えるよう各校2点までとする校内選考を前提にして出展された全作品に奨励賞等の賞状授与を実施できたが、大会会場に展示発表をする都合から、締め切りまでの期間が短くまた卒業設計で取り組んだ作品も対象としたいと考えたため、担当の先生方には重ねてご迷惑をかけてしまった。

さて、このような厳しい条件にもかかわらず10枚16作品の出品があり、また各学校での熱心なご指導がしのばれる作品が集まった。作品展では、できるだけ多方面からその成果を評価する事を考えて別掲のように各賞を設け、作品の特長を各賞の名称に加味させていただいた。企業からの賞には副賞としてCASソフトのプレゼントがあり、また作品を展示した会場では、大会参加者に投票を求め大賞を選出した。投票の結果、大賞のCAD教育奨励賞は「KINDER GARTEN」(阿曾沼 義典：市川工高)に決まった。

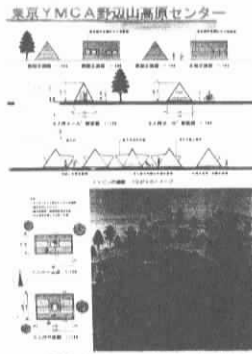
ただ、限られた時間と制約の中での運営のため、まだまだ不十分な面が多々ありご期待にほど遠いものと考えている。これからもよりよい作品展を目指して担当の先生方からのご意見と作品をお待ちしております。

◇CAD実技講習会について

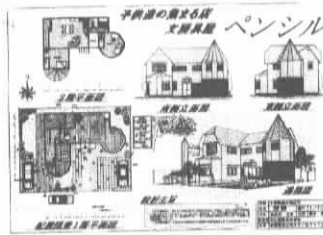
前年度の「JW-CAD」の実技講習会で継続開催を望む意見も集まったため、今年度は特別講習会として7/27、28の両日に渡り都立蔵前工業高等学校を会場に開催した。開催を快諾して下さった建築科の先生方には、準備段階から大変心強くご協力いただき重ねて御礼申し上げたい。

第一日目は、高度な展開を実践している塩澤委員(関東第一高)を講師として「JW-CAD」の操作方法を体験する講習会を行なった。二日目は、会場の最適なコンピュータ環境を構築した堀内先生(蔵前工高)に御案内をいただいてウインドウズ版のCAD(DRA-CAD for Win.; 株)構造システム)及びCGソフト(Piranesi; 株)インフォマティクス)を用いた応用展開の方法を探り、今後のCAD製図を考えるよい契機となった。

本年度の夏期研究協議会(計画分科会主催)と近接した時期的に厳しいものとなり、当初は経費と参加者数の問題が心配されたが、36名の参加者数に達し内容的にも充実した研修会なり、舞台裏ではスタッフ一同胸をなで下ろすことができた。出張旅費の削減が一段と厳しくなる中、少しでも研修機会の拡大を願ってこのような特別研修会が今後も実施しやすいよう、現在、事務局を通して全工協と調整を始めている。



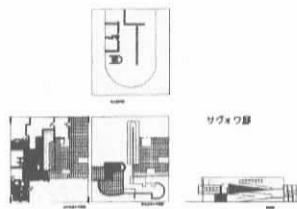
YMCAs デザインコンクール野辺山高原センタ



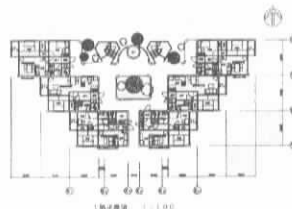
店舗付住宅
(文具屋 ペンシル)



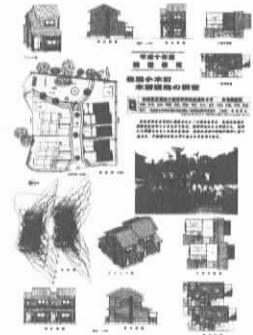
店舗付住宅(カフェプラザスクリ)



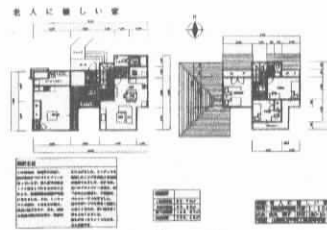
サヴォワ邸



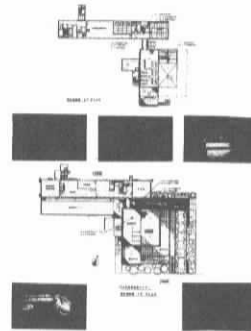
金沢市営住宅の建て替え



課題研究 住宅調査



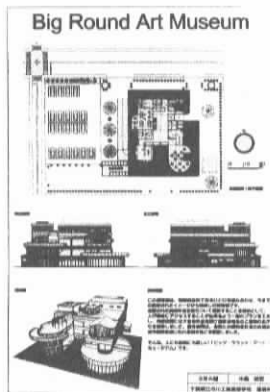
老人に優しい家



森の交流館
(川上村林業総合センター)



KINDER GARTEN



Big Round Art Museum

協賛

(株)構造システム
(株)構造システム東京販売
(株)構造システム大阪販売

第4回 CAD作品展出品一覧

学校名 担当者	課 学科	年	氏名	作品名	ソフト	期間	科目	コメント	備 考
群馬県立藤岡工高 根岸俊行	全建築	3	関根 一実 小坂橋 寛明	海に臨む公民館	ア・ネット* 21/ ソフト* (ソフト)	98.11-99.02 約2ヶ月	選択 A 計画・ B 製図	テーマ「我が町の公民館」、手書き作品を CAD 化し プレゼンテーションの方法を学ぶ。 同上、平面プランが思うように行かなかった。大壁 根をのせてアペールした。	奨励賞 奨励賞
				YMCA デザインコンクール 野辺山高原センター 木造2階建専用住宅	JW_CAD/SH32 ソフト* (ソフト) WH-CAD95	98.06-98.09 約3ヶ月 98.09-98.11 約3ヶ月	製図 実習(設計)	キャビンの設計、手書きから CAD、CG の表現、彩 色・出力の方法を学ぶ。 東日本コンクール課題、アパレルの勉強、エッセイの具体化	プレゼンテーション賞 奨励賞
私、関東第一高 塩澤 泰 私、昭和第一学園高 土方 茂	全建築 (ア*イ)	3	佐藤 哲也 木澤 美樹	店舗付住宅(文房具屋 ペンシル)	JW_CAD	99.01-99.02 約1ヶ月	情基、製図、 課題	卒計は全員 CAD(パソコン全員購入)、曲線を使った平 面を希望したが…、パースは2.5D でなく2点透視 曲線が多く透視図で苦労していた(パースは2.5D で なく2点透視)	インパクト賞 ドローイング賞
				店舗付住宅(ショップ* ストア)	JW_CAD	99.01-99.05 約4ヶ月	建築クラブ	基本操作の理解、線の太さの違い、文献を参考に写 真も見ながら作図、2.5D を使い表現を豊かにしたい。 JW_CAD は色が着かないので表現が難しい、いかに 線の太さを変えて表現するかが問題。	ドローイング賞 奨励賞
私、安田学園高 西岡 守	全建築	2	坂入 誠 土井 善生	サザエワロ	JW_CAD	98.12-99.03 約4ヶ月	建築同好会	光・風・緑・ふれあい 周辺環境になじみ自然な形 で生成されるアメニティを旨とした。	ドローイング賞
				中庭のある住まい(日 工大コンペ課題)	AUTO-CAD adpack-D	98.04-98.12 約9ヶ月	課題研究	町営団地を調査し図面をパソコンで作図、設計者・役場 当局と懇談、データの共有方法、各図を手分け作図 の表現方法について理解を深めさせる。	アカデミック賞 構造CAD大阪販売賞 奨励賞
金沢市立工業高 中川 良昭	全建築	3	荒井 宏章 新藤 祐二	金沢市営住宅の建て 替え	JW_CAD 222 SH V1.11	98.11-99.2 約 3ヶ月	情報技術基礎		奨励賞
				課題研究 住宅調査 以下12名	JW_CAD	98.07-98.09 約2ヶ月 98.09-98.11 約3ヶ月	課題研究 実習(CAD 班)	自由テーマ、CAD の基本操作、住宅設計を行った。 課題の時間を十分にとった。体系的な指導が必要。 実在の建築物の図面を CAD 化し模型も製作。県住 宅フェアに出展、関心ある題材で集中していた。	パリアフリー賞 アカデミック賞 構造CAD東京販売賞
新潟県立高田工高 南保 善久	全建築	3	金井 沙樹 以下12名	木造2階建専用住宅	JW_CAD	98.09-99.02 約5ヶ月	実習(卒計)+ 課題研究	実例見学の上で最終から CAAD を用いる。設計シミュ レーションの最終段階とした。デザインを重視。 ○□の形をどう生かすか、CAAD を自由に操作し 完成度のたかい形にまとめた。	プラニング賞/構造シス テム賞/CAD 教育奨励賞* デザイン賞
				木造2階建専用住宅	JW_CAD 222	98.07-98.09 約2ヶ月 98.09-98.11 約3ヶ月	課題研究	自由テーマ、CAD の基本操作、住宅設計を行った。 課題の時間を十分にとった。体系的な指導が必要。 実在の建築物の図面を CAD 化し模型も製作。県住 宅フェアに出展、関心ある題材で集中していた。	パリアフリー賞 アカデミック賞 構造CAD東京販売賞
埼玉県立春日部工高 香山厚雅、長島佳久	全建築	3	連実 和典 小山 俊輔	木造2階建専用住宅	JW_CAD	98.07-98.09 約2ヶ月 98.09-98.11 約3ヶ月	課題研究	自由テーマ、CAD の基本操作、住宅設計を行った。 課題の時間を十分にとった。体系的な指導が必要。 実在の建築物の図面を CAD 化し模型も製作。県住 宅フェアに出展、関心ある題材で集中していた。	パリアフリー賞 アカデミック賞 構造CAD東京販売賞
				老人に優しい家	JW_CAD 222	98.07-98.09 約2ヶ月 98.09-98.11 約3ヶ月	課題研究	自由テーマ、CAD の基本操作、住宅設計を行った。 課題の時間を十分にとった。体系的な指導が必要。 実在の建築物の図面を CAD 化し模型も製作。県住 宅フェアに出展、関心ある題材で集中していた。	パリアフリー賞 アカデミック賞 構造CAD東京販売賞
千葉県立市川工高 小池 逸朗	全建築	3	金丸 康子 佐藤 功一	森の交流館(川上村 林業総合センター)	JW_CAD 222	98.07-98.09 約2ヶ月 98.09-98.11 約3ヶ月	課題研究	自由テーマ、CAD の基本操作、住宅設計を行った。 課題の時間を十分にとった。体系的な指導が必要。 実在の建築物の図面を CAD 化し模型も製作。県住 宅フェアに出展、関心ある題材で集中していた。	パリアフリー賞 アカデミック賞 構造CAD東京販売賞
				KINDER GARTEN	JW_CAD 222	98.07-98.09 約2ヶ月 98.09-98.11 約3ヶ月	課題研究	自由テーマ、CAD の基本操作、住宅設計を行った。 課題の時間を十分にとった。体系的な指導が必要。 実在の建築物の図面を CAD 化し模型も製作。県住 宅フェアに出展、関心ある題材で集中していた。	パリアフリー賞 アカデミック賞 構造CAD東京販売賞
千葉県立春日部工高 大久保 亘、菊池貞介	全建築	3	阿曾沼 義典 中島 政宏	Big Round	JW_CAD 222	98.07-98.09 約2ヶ月 98.09-98.11 約3ヶ月	課題研究	自由テーマ、CAD の基本操作、住宅設計を行った。 課題の時間を十分にとった。体系的な指導が必要。 実在の建築物の図面を CAD 化し模型も製作。県住 宅フェアに出展、関心ある題材で集中していた。	パリアフリー賞 アカデミック賞 構造CAD東京販売賞
				KINDER GARTEN	JW_CAD 222	98.07-98.09 約2ヶ月 98.09-98.11 約3ヶ月	課題研究	自由テーマ、CAD の基本操作、住宅設計を行った。 課題の時間を十分にとった。体系的な指導が必要。 実在の建築物の図面を CAD 化し模型も製作。県住 宅フェアに出展、関心ある題材で集中していた。	パリアフリー賞 アカデミック賞 構造CAD東京販売賞

*会場にてCAD教育奨励賞(学校賞)の選考が行われた。

7. 計画分科会報告

神奈川県立小田原城北工業高等学校 大庭 孝雄

10年度の北海道大会では、「2単位履修の場合の指導内容（厳選に伴う内容の整理）」を踏まえた、現行の教科書に基づく、授業展開にどのような工夫が考えられるか、委員会の提言として一例を提示いたしました。

研究協議会では、委員会の提示した『建築計画2単位履修に対応する授業展開の一例』をよりどころに、建築計画の内容を如何に厳選すべきか、2単位履修とする場合、如何なる授業内容・展開ができるか意見交換しました。結果、委員会の提示いたしました骨子に大方の賛同が得られ、方向性に一応の結論を得ることができました。

一方では、協議を進めるなかで、建築計画の授業展開のありかたや資格取得にかかわる問題など、貴重なご意見も数多く出されました。

そこで、本年度の分科会研究テーマといたしまして「建築計画2単位履修に対応する授業展開の一例」を踏まえて、二級建築士の受験対策の面から「指導したいポイント（キーワード）」を抽出、その指導法についてとりあげてみました。

平成11年度秋田大会では、「2級建築士試験」の受験に必要な用語につきまして最近の傾向をリサーチしてこの面から考えた指導したいポイント（キーワード）と内容につきまして委員会の提言にまとめ、協議のより所として掲示致しました。

研究協議会では、参加された会員校の実践状況を私的なご意見を折混ぜながらご披露していただきました。協議会でのさまざまなご意見を咀嚼いたしまして、協議の結論を以下のようにまとめさせていただきました。（次項に、参考までに『2級建築士の受験に必要な用語』につきましての本委員会の調査結果を掲載いたしました。）

●2単位履修を前提に考えると、『住宅』を主たるテーマとする授業展開が主流をなしている。（北海道大会での協議と同様の方向に意見集約された。）

この『住宅』を主体とした授業展開の中で、資格取得の面から、原論や設備、そして建築史を如何に折混ぜるのか、それぞれの学校での苦心や工夫が見られる。

●『二級建築士の受験からの視点でどのような授業展開がなされているのか』については、殆どの学校で直接的に受験を念頭に置いた授業展開はしていない。

●工業高校にとって二級建築士は、施工技術者にまして、重く受けとめられ、『二級建築士』資格取得を目標に学習面での意識高揚をはかる考え方は、昔も今も変わっていない。陰に陽に、指導に折り込まれている様子を伺い知ることができた。

一方では、在学中に受験可能な施工技術者試験に対する受験対策指導は、かなりの学校で実施している。

●『受験に必要な用語』にこだわりすぎると、本来の建築計画の指導の流れを乱すことになりかねない側面がある。あくまでも、学問的に『学ぶ上でのあるべき姿』を念頭に授

業展開することが肝要。

このようなことから、受験対策はさることながら、2003年のカリキュラム編成に向けて、まず、最小限履修単位を2単位と見定めるときに、そう幾通りもの指導法は無いということと、あくまでも『住宅』を根幹に据えた指導が肝要であるとの結論を得ました。

今後は文字通りの『21世紀の建築教育』の在りようにせまる研究協議を進めていかなければなりません。

次に、平成11年夏期研究協議会につきまして、以下にご報告申し上げます。

- (1) 実施期日・場所 : 第1日 7月23日(金): 鹿島K Iビル、都立蔵前工高
: 第2日 7月24日(土): 浅草寺、浜離宮
- (2) 参加者 : 44名
- (3) 研究協議 I : 建築意匠設計
講師: 鹿島建設設計本部 木島 暁氏・玉井 洋氏
鹿島建設設計部の新入社員教育などについて
鹿島K Iビル内見学
研究協議 II : 施工会社の建築設備設計の現状
講師: 三建設備(株)設計本部 鈴木 良治氏
設計管理、最近の主な設備テーマなどについて
- (4) 見学会 I : 江戸東京博物館見学
見学会 II : 浅草寺～水上バス～浜離宮見学

本研究協議会につきましては、都立蔵前工業高校の堀内仁之先生のご尽力をいただき講師のご紹介、さらには鹿島K Iビル内見学をご手配いただきました。会場につきましては、土田裕康先生はじめ都立蔵前工業高校建築科の先生方に会場の準備から後片付けまで大変お世話になりました。心から御礼申し上げたいと存じます。

以上ご報告申し上げます。

また、今回の夏期研究協議会は、直前になりまして集合場所が都立蔵前工業高校から赤坂の鹿島K Iビルに変更になりまして、ご参加いただきました会員各位には大変ご迷惑おかけいたしました。紙面をお借りいたしましてお詫び申し上げます。

2級建築士試験の受験に必要な用語(1)

教科書	目次	2級建築士試験の受験に必要な用語
<p>第1章 建築計画の概要</p>	<p>1. 建築計画の意義 2. 建築計画の進め方 3. 建築の空間と造形</p>	<p>設計図書 建築主 施工者 エスキス サニタリー、動線 シムメトリー、黄金比、マンセル表色系、色相・明度・彩度、無彩色、補色、演色性、同時・継時・面積・対比進出・後退色、軽重感、膨張・収縮色</p>
<p>第2章 建築の移り変わり</p>	<p>1. わが国の建築 2. 西洋の建築 3. 近代の建築 4. 現代の建築</p>	<p>堅穴住居、床住居、独立柱、扱首、寝殿造、書院造、数寄屋造、柱離宮、茶室、柱、角柱、畳、天井引違戸、押板、床建棚、付書院、町屋、農家、通り庭、広間型、田の字型、住吉造、大社造、神明造、春日造、流造、八幡造、石の間造、八棟造、権現造、霊廟建築、伊勢神宮、日光東照宮、和様、大仏様、禅宗様、折衷様、法隆寺金堂、五重塔、東院夢殿、薬師寺東塔、唐招提寺、金堂、中尊寺金色堂、慈照寺銀閣、東大寺、南大門、円覚寺舍利殿、平くずしの高欄、さし肘木、火頭窓 バルテノン神殿、オーダー、黄金比、パンテオン、コロセウム、ベンデテンティヴドーム、ハギア・ソフィア、パリ大聖堂、フライング・パットレス サン・ピエトロ大聖堂 ル・コルビュゼ、ミース、ライト、アールト、グロピウス プロイヤー、クリスタルパレス、サヴォア邸、ロンシャンの教会堂、落水荘、ロビー邸、ファンクスワース邸、マイレア邸、西洋美術館、シドニーのオペラハウス、レイモンド 谷口吉郎、坂倉準三 丹下健三、前川国男、大谷幸夫、藤村記念堂、神奈川県立近代美術館、広島記念資料館、京都文化会館、国立総合競技場、国立京都国際会館</p>
<p>第3章 建築物の内外の環境</p>	<p>1. 気候 2. 日照と日射 3. 採光と照明 4. 換気と通風 5. 伝熱 6. 音響</p>	<p>日較差、最多風向、風配図、快適温度、体感温度、有効温度、温熱要素、乾球温度、湿球温度、水蒸気量、空気線図、相対湿度、絶対湿度、不快指数、普通着衣、気流、カタ冷却力 日照時間、日照率、日影図、日影時間、南中時、日影図、太陽高度、均時差、日射量、全日射量、直射日射量 天空日射量、大気通過率、可動ルーバー、ベネシャンブラインド、熱線吸収ガラス 空気汚染、体臭、じんあい濃度、アスベスト、CO₂濃度、粉じん、CO濃度、O₂濃度、浮遊粉じん、質量濃度、自然換気、機械換気、第1種換気、第2種換気、第3種換気、動力換気、風力換気、換気回数、換気量、必要換気量、吸気機、排気機、風圧力、通風計画 熱貫流率、熱貫流率、熱貫流抵抗、熱伝導率、熱伝導率、熱伝導率、熱容量、熱損失、断熱材、断熱性能、中空層、中空層、ふく射熱、防湿層、室温変動、湿り空気 結露、露点温度、飽和水蒸気量 音響出力、音の周波数、音の強さ、音の強さのレベル、騒音、騒音レベル、振動レベル、等音曲線、許容騒音、音の通過率、音響透過損失、遮音、遮音材、遮音効果、吸音、吸音材、吸音率、反響、エコー、マスキング現象、音響効果、音源、ホワイトノイズ、直接音、間接音、明瞭度</p>

2級建築士試験に必要な用語(2)

教科書・目次	2級建築士試験の受験に必要な用語
<p>第4章 住宅の計画</p> <p>1. 住宅の意義 2. 全体計画 3. 各部の計画</p>	<p>独立住宅、集合住宅、連続住宅、共同住宅、専用住宅 バリアフリー、日照、日影、採光、通風、延焼防止、敷地、面積、建築面積、防火、ブライバシー、サービスヤード、アプローチ、ガレージ、カーポート、建ぺい率、道路、ピロティ、ベデस्तリアンデッキ、食寝分離、動線、浄化槽、高齢者配慮の住宅、車椅子配慮の住宅、ホームオートメーション ベッドの大きさ、書斎、クローゼット、二世帯住宅、リビングダイニング、ダイニングキッチン、リビングキッチン、リビングダイニングキッチン、茶の間、L、D、LD、DK、LDK、調理機器、調理の流れ、調理台の高さ、調理台の奥行、パントリー、押入と室床面積との割合、玄関扉の開き勝手、エントランス、踏面、け上げ、高齢者配慮住宅の玄関まわりの高低差、高齢者配慮住宅の手すりの高さ、便所の出入口の有効幅、浴室扉の開き勝手、浴槽の縁と洗い場の床との高さ、洗面器の高さ、ユニットバス、外だし式浴槽、水まわり、高齢者配慮住宅の便所・浴室・洗面所、車椅子使用者配慮の各出入口、有効幅、高齢者配慮住宅の段階の勾配、車椅子使用者配慮のスロープ勾配、車椅子使用者配慮の廊下幅、ウォークインクローゼット、ユーティリティ、マルチパーパスルーム</p>
<p>第5章 集合住宅の計画</p>	<p>1. 集合住宅の意義 2. 全体計画 3. 各部の計画</p>
<p>第6章 事務所の計画</p>	<p>1. 事務所 2. コア (ダブルコア) 3. 2方向避難、執務空間 4. 可動間仕切、モジュール割、位置、机配置 (同向配列・対向配列)、所用面積、OA化、フリーアクセスフロア、基準階階高、窓の寸法と位置、机配置 (同向配列・対向配列)、所用面積、OA化、フリーアクセスフロア、エレベーター速度、柱間、ドラリエリヤ、ゴミ排出物比率、駐車場 (配置と動線)、空調設備</p>
<p>第7章 都市と地域の計画</p>	<p>1. 都市計画の概要 2. 都市計画の進め方 3. 住宅地の計画</p>
<p>第8章 建築設備の計画</p>	<p>1. 建築設備の概要 2. 給排水・衛生設備 3. 空気調和・換気設備 4. 電気設備 5. 防災設備</p>

8. 構造分科会報告

東京都立葛西工業高等学校 大久保 健

構造分科会は、今年度8回の委員会と1回の委員対象の実技講習会を開催しました。1年間の活動状況と秋田大会総会の内容を報告します。なお、長い間主査をしておりました、本間先生（田無工）より正式に今年度から私が務めることになりました。よろしくお願い致します。

平成10年9月10日（木） 第1回委員会（神奈川工高）

1. 平成10年度北海道大会 総会・研究協議会の報告
2. 平成10年度夏期研究協議会 主催・製図分科会（8月4日～5日 市川工高）
3. 建築基礎問題集の訂正について
4. 製図コンクール委員の確認（雨宮、大久保両委員を選出）
5. 分科会の取組内容について
 - ・総会の準備以外に構造分科会としての本来の研修を積極的に進める。
 - ・見学会、講習会等を11月下旬、1月中旬に計画したいことを決める。

平成10年10月20日（火） 第2回委員会（安田学園高）

1. 平成11年度構造分科会年間計画について
 - ・総会のための準備
 - ・構造分科会委員として、お互いの研鑽を積極的に進める。
2. 建築構造および建築設計授業説明用の簡単な教材を作り次回までに持ち寄る。
3. 構造分科会委員の研修として「朝顔箱」製作を計画する。
4. 葛西工高池上先生に構造分科会委員をお願いする。

平成10年12月10日（木） 第3回委員会（市川工高）

1. 平成11年度構造分科会年間計画について
 - ・構造分科会 年6回位を予定する。
2. 平成11年度秋田大会の共通テーマ「21世紀の建築教育の在り方」
 - ・構造分科会としての取組について意見交換
 - ・建築専門教育の在り方について持論を各委員次回までにまとめる。
3. 建築構造設計教材について
 - ・各自持ち寄りの教材紹介しこれからも取り組んでいく。
4. 「朝顔箱」製作を実技講習について決定
 - ・講師を片桐工務店社長片桐さんをお願いし、蔵前工高で今年度中に実施する。

平成11年2月4日（木） 第4回委員会（田無工高）

1. 建築構造設計教材について
 - ・現在の教科書に比べ、内容の精選と削減は避けられない

2. 平成11年度秋田大会の準備について

- ・共通テーマ「21世紀の建築教育の在り方」教育の在り方について、構造分科会としての取組について意見交換。

3. 「朝顔箱」実技講習について

期 日：平成11年3月30日（火）

場 所：都立田無工業高等学校

講 師：片桐 勝（片桐工務店社長）

平成11年3月4日（木） 第5回委員会（田無工高）

1. 平成11年総会について

- ・共通テーマ「21世紀の建築教育の在り方」について
- ・サブタイトルを決めまとめる。

2. 「朝顔箱」製作の実技講習について

平成11年4月27日（火） 第6回委員会（葛西工高）

1. 平成11年総会について

- ・共通テーマ「21世紀の建築教育の在り方」について
- ・サブタイトル「建築構造設計の基礎・基本とは何かを考える」

①建築構造設計の基礎・基本とは何かを考える

今までの教育を考え、現在の学校現場の問題点を出し合い今後の教育を考える機会としたい。新学習指導要領の建築構造設計、建築構造における基礎・基本とは何かを考える。

②構造・構造設計の教材

実践的な試みを通じていろいろな教材作りの新しい試みを提供する。

標記テーマを受けて参加校にアンケートをお願いし、そこで構造分科会としても、次回までにまとめるために各委員にもアンケートをお願いした。

平成11年5月25日（火） 第7回委員会（蔵前工高）

1. 平成11年総会について

- ・構造分科会委員にアンケートに答えていただき、その回答をまとめ総会の分科会に提案し、意見交換してもらうこととした。
- ・アンケート回答のまとめ、資料作り

平成11年6月1日（火） 第8回委員会（蔵前工高）

平成11年度総会、分科会資料の印刷、梱包、郵送

総会・分科会の役割分担

①理事会出席・総会への報告 大久保

②分科会 司会 池上

書記 沢野

発表 大久保

平成11年6月17日（木）～18日（金）総会・分科会（秋田大会）

構造分科会

参加者30名で行われた、共通テーマである「21世紀の建築教育の在り方」を受け構造分科会でサブタイトル「建築構造設計の基礎・基本とは何かを考える」としアンケートによる回答をまとめ分科会に提案し、意見交換を行なった。また参加校にもアンケート調査を実施しまとめることにした。

アンケート回答

・教科書ではどの範囲まで取り組んでいますか。

多くの学校は第4章部材の性質と応力度までであった。

・重要ポイントはどこですか。

構造物の応力算定ができること。単純梁について全員が解けることを目標にしている。

・建築構造設計の授業の展開で問題点を具体的に上げて下さい。

単位の概念が理解できない。簡単な少数、分数を理解できない。関数が理解できない。入学時点で学力差があり、算数の理解ができていない。授業を一本化して行うことに難しさがある。

学校により単位数がまちまちである。工業教程を含め4単位の学校が多い。

教科書では、個々の力学的要素は詳細であるが、実際にどこに使用されるかの見通しが示されない。

・今後の建築教育の在り方

建築を通して社会の発展に貢献できる人材を輩出するためにも建築科を卒業する生徒の資格取得は必要不可欠であると考え。特に建築構造設計の基礎基本は資格取得において必要性が高く二級建築士を取得するための力をつけることが一つの目標になる。

学校により学力差があり、また学位数が違うこともあり、その学校にあった方法を参加校より、紹介、意見をいただいた。

参加校よりのアンケートを受けました委員会でまとめていき、今後の建築構造設計の指導に役立てていきたいと思います。

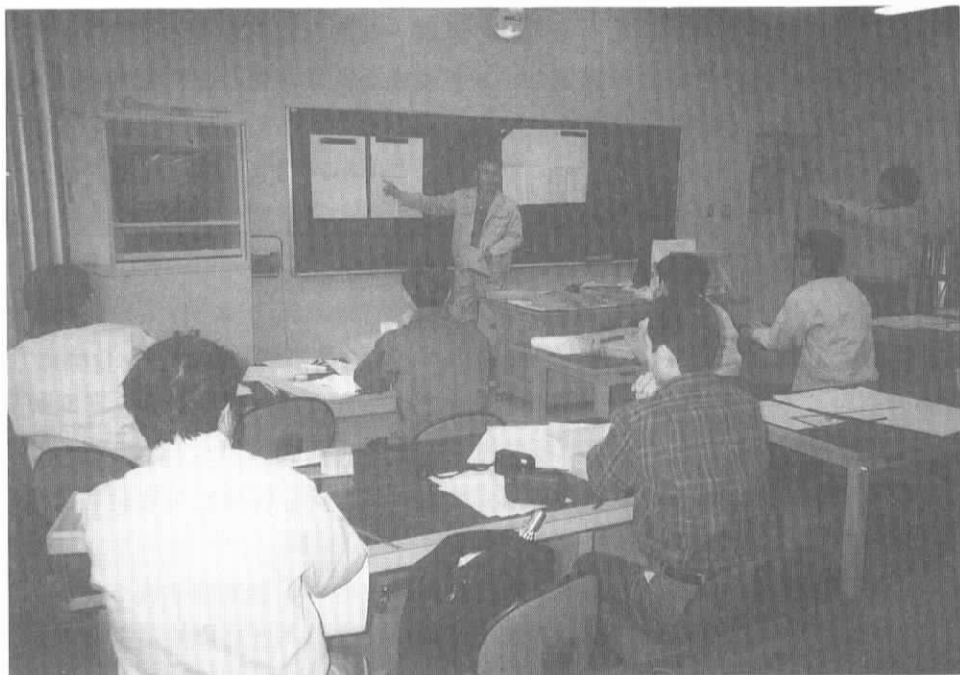
平成11年3月30日（火）実技講習会（田無工高、木造実習室）

規矩術入門（さしがね使い入門）

「朝顔箱」製作の実技講習会（構造分科会委員研修会）

時程：集合	8：30
開始	9：00
挨拶・講師紹介	9：00～9：05
ビデオ	9：05～9：20
説明・実技	9：20～12：00
（昼食）	
説明・実技	13：00～16：00

構造分科会の研修会として、委員10名、他5名で行なわれた。講師の片桐 勝（片桐工務店社長）先生には大変お世話になり、ありがとうございました。



9. 施工分科会報告

日本工業大学付属東京工業高等学校 内藤美雪丸

施工分科会は、年4～5回の委員会を各委員の勤務校を、廻りながら施設の見学を含め交流を計りながら会議を行っています。交流することにより新たな刺激があり会の発展につながると考えます。

今回は、平成10年9月から平成11年8月までの1年間の活動状況と、秋田大会総会・研究協議会の内容を報告いたします。

平成10年12月8日（火） 平成10年度第3回委員会（日本工業大学付属東京工業高校）

1. 理事会の報告（12月4日 蔵前工業高等学校）
2. 平成10年度の研究課題の検討

「課題研究」の授業の中で「建築施工実習」に関係するテーマが、どのような内容で行なわれているかを、各委員の指導案を持ちより検討した。

2単位の内容でまとめることになった。

3. 現場見学会

日本工業大学付属東京工業高等学校の校舎新築工事（第1期工事）の工事現場の見学を行った。第1期工事は仕上げ工事の段階に入っていたが、効率的な敷地利用や新材料の使用例を現場担当者から説明を受け見学を行った。

平成11年2月20日（土） 工事現場見学会

1. 警視庁高井戸警察署の新築工事現場の見学

平成11年2月20日（土） 平成10年度第4回委員会（東京都立田無工業高等学校）

1. 主査会の報告
2. 平成10年度の研究課題の検討

「課題研究」の指導案を各委員が説明を行なった。

3. 平成11年度の製図コンクールの施工分科会よりの代表委員を選出した。

伊藤彰人先生（横浜市立鶴見工高） 飴谷知久先生（安田学園高）にお願いしました。

平成11年5月31日（月） 平成11年度第1回委員会（日本工業大学付属東京工業高校）

1. 理事会・主査会の報告

2. 平成10年度の研究課題の最終まとめを行う。

① 施工分科会の資料をまとめ、印刷、製本、発送を行う。

② 総会の研究協議会の進行方法について検討する。

3. 平成11年度より当分科会委員に、網中正仁先生（群馬県立桐生工高）が加わり15名になる。

平成11年6月17日（木） 秋田大会・施工分科会研究協議会の報告（出席27名）

研究協議会は、多数の先生方に出席していただき、約2時間熱心に討議、意見交換することが出来ました。ここに内容の一部を記載いたします。研究課題の詳しくは、資料No.34を参照して下さい。

※ 施工分科会の活動報告・研究課題の説明……………主査

1. 研究課題（21世紀の建築教育の在り方）

① 2単位で実施する「課題研究」の施工関連分野の実施例

・内容のまとめ方は次のように行った。

各委員校で実施している「課題研究」から、それぞれ1テーマを選び、進捗計画・実施上の留意点を踏まえた立場から、解説、紹介している。実施例には、次のような内容を提案した。

作品製作タイプの課題研究

・木造四脚門の製作（現寸）・木造軸組部分製作（現寸）・木造仕口継手製作・ベンチ製作・ログハウス模型製作・鉄筋コンクリート配筋模型製作・木造軸組模型製作

調査研究タイプの課題研究

・施工図の調査・校内タイル貼部分の調査・校地の標高測量・校地の地積測量・鉄筋コンクリート構造の積算

産業現場における実習の課題研究

・実際の建設現場における実習

② 職業資格の取得に対する増加単位の例

委員校での取りくみと実施例の報告

それぞれ資格には、対応科目が定めてあり、それに増加単位として認定している。

増加単位の認定している……………4校（14校）（ ）は調査校数

近く教務上の検討に入る……………4校（10校）

③ 木材加工用機械作業主任者選定について 田辺委員（昭和第一学園高）

昨年度のニュースに詳しく掲載いたしました。据え置き木材加工用機械を5台以上所有している作業所（学校）では有資格者（教員）が必ず作業（実習）に立合い指揮監督をしなければならないと、安衛法で規定されている。作業主任者を選任していない場合で、実習中に生徒又は教員にけがを生じた場合には、管理責任を含め問題が生じて来る可能性がある。安全教育が最優先の風調にある現在では、未実施校では検討する必要がある。

2. 課題研究、増加単位に関して出席の先生方のご意見を伺った所次のような意見があった。

① 増加単位に関連した意見

・コース制を利用して資格にチャレンジしている。

- ・増加単位にも評定をつけている。
- ・増加単位には評定はつけていない。
- ・現在は科により単位数がバラバラである。
- ・学校により同一資格でも単位数に差があるので統一すべきではないか。
- ・増加単位の資格を取るより、本来の建築の勉強をしっかりとやらせたい。
- ・指導要録の記載が複雑になった。

② 課題研究の内容に関連した意見

- ・鉄骨部分では溶接が重要になって来ているので実施している。
- ・補強ブロック構造で資材置場を建設している。
- ・文化祭のアーチを4月から製作している。
- ・製図の不足時間の補いに使っている。
- ・夏休みに有名建築の調査を行い、図面、模型を2年がかりで作っている。
- ・現場実習を取り入れるための研究をしている。

以上のような意見を伺い閉会いたしました。

平成11年7月21日（火） 平成11年度第2回委員会（昭和第一学園高校）

1. 秋田大会の報告（6月17日、18日） 秋田ビューホテル
総会、および分科会での会員よりの意見を報告
2. 平成11年度研究課題の検討
「職業資格」を必要とする作業内容を伴う施工関連実習の指導案の検討
3. 実習設備、施設の見学会
昭和第一学園高校、建築実習棟が新築されたので見学会を行なった。

※ 施工委員会に関するご意見等がありましたらご連絡下さい。

※ 次頁に、施工分科会 秋田大会 資料No.34 課題研究「四脚門の製作」を掲載

課題研究の指導法

週当たり2時間の通年実施の場合

項目	四脚門の製作	単位数	2	単位
----	--------	-----	---	----

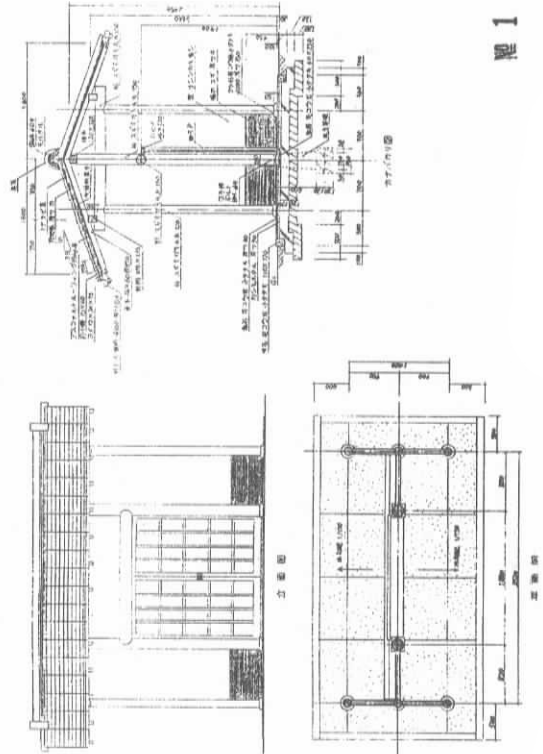
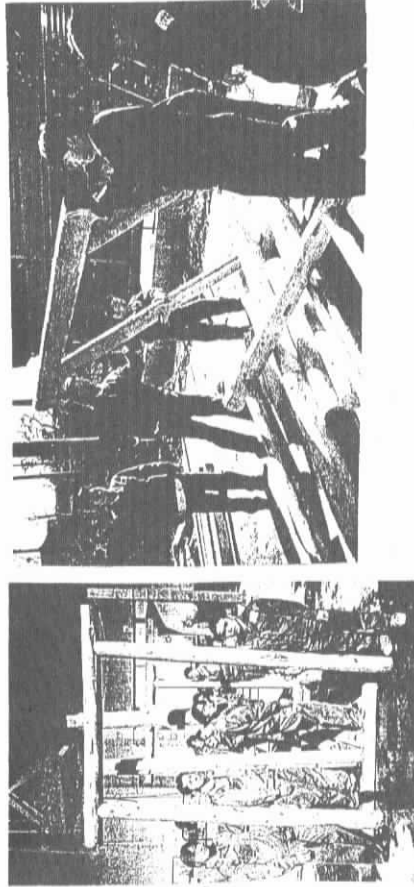
- (1) 研究の目的
3年間の総まとめとして、製図の付図、四脚門の製作で総合的な木造技術の体験をする。
木材加工の総合力を身に付けつつ、研究する。

(2) 年間進捗計画

回数	時間	実習内容	容
1	4	平面図 伏せ図 軸組図 材料拾い出し発注	年間計画
2	4	仕口、継ぎ手の検討	墨付け
3	4	土台ベースの墨付け加工	
4	4	土台ベースの墨付け加工	丸太柱の墨付け加工
5	4	胴差し、軒桁、火打ち梁の墨付け加工	
6	4	壁の加工、取り付け	
7	4	丸太の取り付け加工	
8	4	たる木の加工	
9	4	金物の取り付け	
10	4	建て方調整	
11	4	建て方調整	研究成果発表準備
12	4	校内	課題研究成果発表会

(3) 留意点

- ① 材料の準備、加工場所、加工の数の基本的な条件整備を行い作業に遅れが出ないように留意する。
- ② 加工に当たっては、基本的な注意点の確認を行い、作業の進捗差などを的確に捉え、アドバイスを行う。
- ③ 木工機械の取り扱いには、基本的にさせない。動力電源のスイッチのオン、オフに留意する。
- ④ 継ぎ手、仕口部の取り付け合について、大工さんに尋ね研究しておく。
- ⑤ 全体の期間を捉え、生徒の適正、能力に応じたアドバイスを行う。



10. 製図コンクール運営委員会 (第17回 審査結果報告)

関東第一高等学校 塩澤 泰

第17回（平成10年度）製図コンクールには、会員校および、会員以外の諸先生方のご協力を得て、優秀な作品を多数応募いただき、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。尚、本運営委員会の委員長を永らく勤められました土田裕康先生が、来年3月で退職されることになりましたので、私が変わりに勤めさせていただくこととなりました。土田先生には長い間本当にご苦勞様でした。今後とも、諸先生方の絶大なるご協力、ご支援をお願い申し上げます。

1. 応募校数

86校（全日制 80校、定時制 6校）

東（会員校） 全日制 72校 定時制 6校

西（会員校外） 全日制 8校 定時制 0校

2. 応募作品数

課題	学校数・作品数		全日制・定時制の別			
	東	西	全	全日制	定時制	点
課題 1	66校	129点	全 64校	125点	定 4校	7点
	9校	16点	全 9校	16点	定 0校	0点
課題 2	52校	94点	全 51校	93点	定 1校	1点
	6校	12点	全 6校	12点	定 0校	0点
課題 3	44校	81点	全 43校	79点	定 1校	2点
	3校	6点	全 3校	6点	定 0校	0点
計	338点（東 304点・西 34点）					

3. 各課題応募作品数・学校数

課題	1点	2点
課題 1	2校	73校
課題 2	10校	48校
課題 3	7校	40校

4. 校内作品審査数の統計

	課題 1	課題 2	課題 3
東	2,180	1,597	1,215
西	399	258	89
計	2,579	1,855	1,304

5. 都道府県別応募数・学校数 平成10年度 (第17回)

都道府県	会員 校数	課 題 1		課 題 2		課 題 3	
		学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数
1 北海道	18(5)	2	3	0	0	0	0
2 青 森	6	2	4	1	2	1	2
3 岩 手	4	3	6	2	4	2	4
4 宮 城	4(1)	0	0	1	2	0	0
5 秋 田	6	2	4	1	2	1	2
6 山 形	4	1	2	1	2	0	0
7 福 島	7(1)	3	6	3	6	2	4
8 栃 木	8(1)	5	10	5	8	3	5
9 群 馬	8(2)	4(1)	8(2)	2(1)	3(1)	1(1)	2(2)
10 埼 玉	6(1)	5	9	5	8	2	4
11 茨 城	5	2	4	2	3	2	4
12 千 葉	7(1)	3	6	2	4	2	3
13 東 京	13(3)	7(1)	14(2)	6	11	8(1)	14(2)
14 神奈川	11(4)	2	4	2	4	3	6
15 山 梨	4(1)	3	6	3	6	3	6
16 新 潟	4	2	4	0	0	0	0
17 長 野	5(1)	3	6	3	5	2	4
18 富 山	2	1	2	0	0	0	0
19 石 川	5(1)	0	0	0	0	1	1
20 福 井	2	0	0	0	0	0	0
21 静 岡	9(3)	2(1)	4(2)	1	2	1	2
22 愛 知	9(1)	8(1)	15(1)	7	13	4	7
23 岐 阜	7	6	12	5	9	6	11
計	152	66	129	52	94	44	81
定時制	(26)	(4)	(7)	(1)	(1)	(2)	(4)
24 西日本	130(23)	9	16	6	12	3	6
三重<6>・大阪<2>・兵庫<8>・広島<8>・愛媛<5>							
合 計		75	145	58	106	47	87

() 内の数字は定時制

6. 入賞者一覧表 (第17回)

課題 賞	課 題 1	課 題 2	課 題 3
金 賞	大船渡工業高等学校 熊谷友幸	宇都宮工業高等学校 柏 愛志	高崎工業高等学校(定) 池田 聡
銀 賞	松山聖陵高等学校 泉原健一 松山工業高等学校 加地祐子 半田工業高等学校 鈴木啓子	半田工業高等学校 竹内辰徳 岐南工業高等学校 木田和美 久慈工業高等学校 前川 亘	松山聖陵高等学校 村井元気 神奈川工業高等学校 河野勝利 神奈川工業高等学校 中山優一
銅 賞	瀧野実業高等学校 田賀宏美 松山工業高等学校 山本まり乃 松山聖陵高等学校 隅田匡史 大船渡工業高等学校 今野貴樹 高崎工業高等学校 吉田賢介 神奈川工業高等学校 佐野正美 高崎工業高等学校 萩澤昌之 鶴見工業高等学校 入内嶋真之 飯田長姫高等学校 新井祐介	宇都宮工業高等学校 竹内香実 飯田長姫高等学校 熊谷千夏 一宮工業高等学校 大熊亮司 福島工業高等学校 正木 守 久慈工業高等学校 三上浩幸 松山聖陵高等学校 沖本隆文 半田工業高等学校 山下修司 神奈川工業高等学校 福田香織	津工業高等学校 山田 歩 津工業高等学校 松木真実 松山聖陵高等学校 片山裕也 関東第一高等学校 二瓶光司 高山工業高等学校 砂田一樹 武蔵越生高等学校 江原雄二 日本工業大学付属東京工業 高等学校 村山 建 真岡工業高等学校 平石裕子
奨励賞	沼津工業高等学校 定時制 渡邊恵子	高崎工業高等学校 定時制 北村智子	蔵前工業高等学校 定時制 菊地次郎

7. 審査講評

第17回製図コンクールには、東日本建築教育研究会に加盟校および、加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂き、別紙のような多数の作品を提出して頂きました事を厚くお礼申し上げます。

審査は課題ごとにチェックポイントを定め、減点方式により複写図の表題欄をカットして、厳正かつ公平に実施しました。

課題1は、参考図を製図の基本（線の太さの区別・文字の大きさなど）に従って、忠実に模写するものであり、全体に優劣のつけがたい作品が多く見受けられました。

課題2は、参考図を模写する部分（平面・立面図）と、設計要素と表現力を必要とする部分（配置図・断面図）の内容であり、断面図の表示内容と造園計画（表現力）が入賞のポイントになりました。

課題3は、設計製図であり、配置・平面・意匠・構造計画および、製図力・表現力など、トータルなもので審査され、入賞作品は平面・立面・構造計画がすぐれており、図面表現が良いものが優先されました。

各課題ごとの詳細な講評は、別紙の通りです。入賞作品のなかにも減点方式であるため、多少の記入もれや未熟なミスのあるものもあります。

したがって、金賞・銀賞作品といえども、未熟なミスがあり甲乙つけがたい作品であるため、未熟なミスの最も少ない作品が上位になりました。今後とも生徒への適切なご指導をお願い申し上げます。

8. 第17回（平成10年度）審査委員

塩澤 泰（関東第一）	古賀 昌之（墨田工）
筒井 斉（向の岡工）	福島 勝（日工大付東京工）
角田 勝男（神奈川工）	菊池 貞介（市川工）
金井 孝雄（高崎工定）	長島 佳久（春日部工）
小沢 宏（墨田工）	大間 俊彦（関東第一）
伊藤 彰人（鶴見工定）	雨宮 行光（甲府工）
大久保 健（田無工）	田辺 登（昭和第一学園）
増渕 政幸（宇都宮工）	岩上 成輝（川崎総合科学）
橋本 政美（昭和第一学園）	諏佐 真一（小石川工定）
土田 裕康（蔵前工）	

11. 資格取得推進委員会報告

埼玉県立春日部工業高等学校 長島 佳久

1. 「平成11年度建築施工技術者試験」(第4回)の実施が決定

すでにご案内の通り、平成11年度(第4回)の「建築施工技術者試験」が平成11年12月19日(日)に、全国50都市において実施される運びとなりました。

ここで過去3年間の試験状況を振り返ってみますと、実受験者数(高校の他専門学校含む)は、平成8年度(9,301名)、平成9年度(11,009名)、平成10年度(10,976名)となっており、初年度を除けばほぼ横ばいの状況となっております。また、各年度ごとの合格者の割合は、それぞれ平成8年度(30.2%)、平成9年度(36.6%)、平成10年度(42.0%)となっており、年度進行とともに上昇傾向にあります。

各先生方には、こうした状況を考慮の上、さらに生徒への資格試験の奨励と合格率の向上のための努力を重ねていただければと思う次第であります。

2. 受験準備への支援

すでに、(財)地域開発研究所の建築施工管理技術研究会より、「平成11年度版建築施工技術者試験とその解説」がお手元に届いていることと思います。今年度、編集の都合により各学校への配布が若干遅れましたが、無償にての提供ということでご了解をいただければと思います。また、今後の編集方針としましては、過去3ヵ年分の問題と解説を順次掲載したいとお話を伺っておりますので併せてご了解いただければと思います。

3. 平成12年度に、「2級施工管理技術検定試験」合格者の追跡調査実施予定

平成8年度の「建築施工技術者試験」合格者は、実務経験3年を経て、平成12年度の「2級施工管理技術検定試験」の受験が可能となります。本委員会では「建築施工技術者試験」の上位資格である「2級施工管理技術検定試験」に生徒が合格してはじめて資格奨励の趣旨が達成されるものと考えております。また、これを機会に、これまでの「建築施工技術者試験」合格者の建設業界での認知度や給与改善の状況等についても併せて調査をしたいと思っています。

つきましては、先生方には、来年度予定の追跡調査実施の資料として、各学校でこれまでに「建築施工技術者試験」に合格した生徒の氏名等あらかじめまとめておいただければと思います。

12. 岩手県工業高等学校建築教育の現況

岩手県立大船渡工業高等学校 建築科 達谷窟敬祐

現在、我岩手県には4校の建築・建設系学科設置校（各校とも1学年1クラス）がある。以下、各校のプロフィールを紹介し、本県建築教育の状況報告としたい。

○岩手県立盛岡工業高等学校建築科

〒020-0841 盛岡市羽場18地割11-1 ☎ 019-638-3141 Fax 019-638-8134

盛岡市の南西、南昌山のふもとの広大な敷地に全日制9学科全27クラス、定時制1学科全4クラス、1千余名の生徒が学ぶ本県工業教育の中心校盛岡工業高校がある。学校創立は明治31年。百有余年の伝統を誇る名門校である。市内中津川の地に最初の校舎が設立されると同時に、建築科の歩みは始まる。余談ながら建築系教育機関としては、全国で3番目の成立と聞く、その後昭和12年に上田校舎、さらに昭和45年に現在の都南校舎に移転。去る平成10年に百周年の式典を挙行した。建築科は創立以来2807名の卒業生を輩出している。特に盛岡工業高校建築科の歩みは、我国建築産業の歴史そのものであり、幾多の先輩諸兄の活躍には試に頭の下る思いがする。

時代は平成に変わり、高度情報化・国際化が叫ばれる中、コンピュータ・通信等の技術革新には目を見張るものがある。また少子化に拍車が掛かり、生徒の多様化等、教育を取り巻く環境も厳しさを増している。盛岡工業高校建築科では、近年の進学率の高まりと進路の個性化対策として、3学年を対象に、工業科目に重点を置いたAコースと、普通科目に重点を置いたBコースの2コース制を導入。就職、進学の両面に即応できる教育内容とし、職員全員が一丸となって指導を行っている。また各種コンクールや施工管理士等の資格取得にも力を入れ、新しい時代に活躍できる実践的技術者の育成を目標としている。

○岩手県立大船渡工業高等学校建築科

〒022-0006 大船渡市立根町字冷溝水1-1 ☎ 0192-26-2380 Fax 0192-27-7789

三陸海岸の景勝地を臨む水産・漁業の街、大船渡市に大船渡工業高校が開校したのは、昭和37年。機械科2クラス、電気科1クラスが、立根小学校の校舎を借りてスタートした。翌昭和38年に電子科、工業化学科。昭和39年には待望の建築科が増設された。爾来、5科全18クラスの工業高校として幾多の卒業生を輩出し、我国産業界に貢献して来たが、平成5年、就学生徒の減少に伴い、機械科1クラスを募集停止、また平成8年には電気科、電子科の募集を停止し、電気電子科を新設。4科全12クラスで今日に至っている。

藩制時代から職能集団として名高い「気仙大工」発祥の地であるここ大船渡に設立された建築科は「学問に直結した即戦力」をモットーに、製図、実習、課題研究に力を入れたカリキュラムで、各種コンクールで優秀な成績を収めている。特に平成10年度は、東日本製図コンクールで見事「金賞」を受賞すると共に、全国高等学校ロボット競技大会で、建

築科チームが全国優勝の偉業を達成した。また座学と実習の統合的学習として卒業設計と施工管理士試験を置き、職員・生徒が力を合わせ、目標に向かって努力している。

○岩手県立久慈工業高等学校建築科

〒029-8201 九戸郡野田村大字野田26-62-17 ☎ 0194-78-2123 Fax 0194-78-4190

岩手県沿岸北郡、九戸郡野田村にある久慈工業高校は昭和55年の創立。今年創立20周年を迎える新しい学校であるが、建築科の歴史は古い。昭和39年、普通高校である県立久慈高校に建築科が設置され、既に532名の卒業生を送り出していた。昭和55年、野田村に新校舎が建設され、建築科は土木科と共に久慈高校から移管。新設されたインテリア科を含めた3科体制で、新しい学校がスタートした。平成6年、学科改編により電子機械科が設立されたのに伴い、建築科にインテリア科が吸収され、類型別選択制を採用し現在に至っている。久慈工業高校建築科となってからは、716名の卒業生を輩出している。

近年、多様化・個性化する生徒の学習指導に対応するため、1、2年次の学習を基礎に3年次で類型別選択制とし、3科目6単位の選択科目を置いている。専門科目では課題研究、製図のCADや卒業設計に力を入れ、職員全員が一丸となって指導にあたり、年度末の「工業展」で作品等を展示・発表し、高い評価をいただいている。毎年7月に中学生を対象に「一日体験入学」を行っている。また、今年度より学校施設・設備の一般開放を行うと共に、地元企業の協力を得て、3日間の「就業体験実習」を実施した。

久慈工業高校建築科は総勢1248名の先輩諸氏の活躍により、地元はもとより県内外から大きな期待を寄せられている。

○専修大学北上高等学校建築科

〒024-8505 北上市新穀町2-4-64 ☎ 0197-63-2341 Fax 0197-63-7458

岩手県の中央部にある北上市は人口約10万。盛岡市に次ぐ岩手第2の都市である。専修大学の附属高校である専修大学北上高等学校は、幾多の逸材を育成するのみならず、甲子園出場3回を誇る硬式野球部を始め、クラブ活動も盛んな文字通り文武両道の本県私学の雄であり、建築・建設系学科を設置する県内唯一の私立高校でもある。創立は昭和22年。この北上高校に建築科と土木科が設置されたのは昭和39年。日本の高度経済成長を支えた幾多の技術者を輩出した。昭和59年、建築、土木の両科を廃止し、工業科建築専攻・土木専攻となった後、平成3年に建設科に科名変更し、現在に至っている。

北上高校建築科は、上記の歴史と伝統を基に、生徒の個性に応じた特色ある教育を行っている。特に2年生の実習では専修大学北海道短期大学で最新機器を用いた「実習合宿」を実施し、成果を上げている。また3年生では、製図に高性能CADソフトを利用した授業を展開すると共に、土木希望の生徒に対しても、土木施工、土木測量等の専門科目の選択が可能なコースを設定している。

北上高等学校建築科は教育目標に「真心」を掲げている。思いやりの心を持って、何事にも全力で取り組む技術者を育成するために、職員一同が一丸となって指導に取り組んでいる。

13. 栃木県工業高等学校建築教育の現況

栃木県立宇都宮工業高等学校 増渕 政幸

栃木県の工業高等学校建築科の概要

栃木県の建築系学科の設置高校は7校あり、宇都宮工業高校のみ全定併設校です。

○栃木県立宇都宮工業高等学校

本校は、大正12年土木、建築、木工の3科3学級により開校した。昭和38年建築科は学年2学級に増え、現在8科30学級生徒数1200名余の県内最大の工業高校である。教訓「一人は一校を代表す」を念頭に宇工高生としての自覚を持ち、野球をはじめ多くの部活動に活発に取り組んでいる。建築科においては、産業界で使える人材の育成を目標に製図、実習、CADの教育、さらに夏季現場実習への全員参加等の実践教育に重点をおいている。定時制は昭和37年に建設科が設置され、電気科、機械科の3科が設置されている。昭和53年には3学年編入制、平成7年には3修制も始めている。生徒も大学卒の編入者を含め多種にわたり、それぞれの目的を持った者で構成されている。

○栃木県立真岡工業高等学校

本校は昭和38年県立農業高校の中に工業科機械科として併設され昭和41年分離独立し、その後、土木科、建築科、電子科が増設され現在4科15学級となっている。真岡市は県南東部の田園都市で、また大規模な内陸型の工業団地を持つ工業都市である。この工業団地の誘致に伴って本校も開校した。建築科では、製図・実習を中心に基礎的・基本的知識・技術の習得を目標にし、特に木造実習においては、建物を建てることへの興味関心を引き出し、学習意欲をたかめている。新しい機器への対応にも充実した内容で新しい技術者の養成に心がけている。「ものづくり」教室としてビデオラックやオルゴール作製等で小中学生との地域交流を計っている。

○栃木県立今市工業高等学校

本校は、日光、例幣使、会津西街道の三杉並木（ギネスブックによる世界一の並木道）が会い、人口6万人の今市市にある。日光参拝の宿場町であり、二宮尊徳の終焉の地である。昭和39年機械科、電気科、化学工学科の3科4学級で開校し、昭和62年建設工学科1学級が設置された。本科は土木、建築のコース制で2年次より選択する。建築コースでは基礎的・基本的な学習内容の指導に力をいれている。部活動は、かつては、ラグビー、現在はフィールドホッケーが盛んで、卒業生は隣接市町村へ就職している。

○栃木県立小山北桜高等学校

本校は小川園芸高校として24年の歴史のある農業高校であったが、平成8年学科再編として工業系、商業系、家庭系学科を加えた4つの大学科6学級からなる総合選択制専門高

校となり、小山北桜高校と改称しあらたな出発をした。本校の選択制は2年次で4単位、3年次で8単位の合計12単位で学科の枠を越えて履修でき、個性を活かす多様な分野の知識・技術が学べる。工業系学科は、建築システム科1科で建築コースと設備コースになっている。新設の学科のため最新鋭の設備が導入され充実した環境である。今年初めて卒業生を出したが、この経済状況下、大変な苦勞があった。新しい学校なので、生徒と一緒に一つひとつ歴史を築いていきたい。

○栃木県立那須清峰高等学校

本校は、県の北部、那須岳のすそ野に立地し、昭和36年県立那須工業高校として発足し、平成9年学科再編により総合選択制専門高校に変わり、那須清峰高校と改称した。「自己啓発」を生徒指標とし、選択制と学校間連携の導入により、多様な進路に対応出来るカリキュラムを用意していることである。校名改称と同時に既設の土木科に建築コースを増設して建設工学科として再発足した。1学年80名を定員とし、1年次に土木・建築の専門科目の共通履修をし、2年次からコースに分かれての授業展開となる。本科では、実習・製図を中心に基礎的基本的な知識と技術を修得させることを目標にしている。施設設備は学科再編により相当充実している。特筆すべきものとして、CAD設備とミニプレカットライクの導入があげられ、実習課題研究等に活用している。

○足利工業大学付属高等学校

本校は、大正14年足利市内の17の各宗仏教寺院で組織する「足利仏教和合会」が、社会事業の一環として足利実践女学校を設立した。この足利実践女学校が戦後の学制改革に合わせて月見ヶ丘高等学校と改称し、昭和36年に男子部を創設した時から男子高校としての本校の歩みが始まり、昭和42年足利工業大学が設立され、これに伴い昭和43年現在の校名に改称し、普通、機械、自動車、電気、建築、情報処理の6科を持つ総合高校として現在に至っている。バレーボール部、レスリング部を始め多くの部活動が活発におこなわれている。素質・能力の見極めと開発、的確な進路指導の2つの目標を達成するために、平成12年から工業科の一括募集を採用し、それぞれの科を2つのコースに分け、適正に合わせたカリキュラムを整えた。本科においては、実務に即応できる施工者・設計者の養成、幅広い情報の獲得、CAD等の技術の基礎的な指導を行っている。

○白鷗大学足利高等学校

本校は、大正14年足利裁縫女学校として創設され、昭和27年足利学園高校（普通、商業、家庭）として新設された。昭和46年建築科が設置された。主に地域の建築業を営む家庭の子が多く、そのためにも木造建築の教育に力を入れてきた傾向があった。現在、在学生徒の90%が普通科の生徒で、大学、短大、専門学校への進学希望者が約65%に達している。併設校には、小山市に白鷗大学（法学部、経営学部）、白鷗短期大学（英語科、幼児教育科、経営科）がある。

14. 千葉県工業高等学校建築教育の現況

敬愛学園高等学校建築科 鈴木 豊

千葉県の工業高等学校建築科の概要

県内で建築系学科の設置高校は、全日制公立高校4校、定時制公立高校1校、全日制私立高校2校の計7校である。以下、7校のプロフィールを紹介することにする。

○ 市川工業高等学校

学年毎に建築科2クラスを置く本校は、昭和18年の開校で昭和23年に建築科を設置した。以来半世紀を超え、立地にも恵まれて関東全域に卒業生の活躍が広がり、恩師を訪ねて気軽に立ち寄る卒業生も多く貴重な情報を得ている。さて、豊かな建築教育の伝統を守りつつ、5年前にC A A D（建築設計専用CAD）を導入した。座学や実習との連携をはかり、製図の苦手な生徒も建築設計を楽しむようになってきた。その成果か、本年の秋田大学C A A D作品展では大賞を受賞。このことが職員や生徒達の励みとなって、コンペや卒業設計に一層力が入っている。また最近では、在校生の積極的な協力を得て一日体験入学や文化祭の体験ツアーを開催。そのときの彼らの好印象が新入生に伝わり良き伝統が生まれている。献身的な職員とOBに、そして在校生にますます感謝を深めている。

○ 京葉工業高等学校

昭和35年創立し、創造のスペシャリストの機械科、ハイテクの冒険者の電子工業科、快適空間のプランナーの設備システム科、地球のクリエイターの建設科の4科を設置している。建設科は1学級40人編成で、2・3年次に土木コースと建築コースを希望で選択する希望コース選択制を設けている。建築、木材工芸、土木、インテリアのエキスパート教員による少人数班編制による幅広い、高度な専門教育の育成を実施している。在学中には様々な国家試験に向けた指導をしているほか、資格取得に関わる科目を増加単位として設定している。卒業生の進路は約7割が就職、3割が進学である。特徴ある部活動は、自動車部が省エネカー全国大会で9回日本一を記録したほか、鈴鹿マイレージマラソンで9連覇を果たし、自動車部は全国大会で上位入賞し世界ジュニアで活躍中である。

○ 茂原工業高等学校

昭和38年、千葉県のはぼ中央にある茂原市に茂原工業高校が設立された。当初は電気科2学級、化学工業科2学級でスタートした。

昭和45年、機械科2学級、昭和47年、土木科1学級を増設、平成元年機械を電子機械科に学科転換、平成4年電気科を1学級減、土木科を建設科と学科転換した。建設科は1年生は共通履修、2年生から土木・建築のコース制をとるようになった。さらに平成7年化学工業科を環境工学科に学科転換して創立当初とは学科名もすっかり代わった。

伝統の浅いわりには、学科改変や学級減等をめまぐるしく変化してきたが、茂原市近辺は、田園風景も豊かで、素晴らしい環境のなかにあり、生徒の気質もおとなしい。

○ 東総工業高等学校

昭和38年創立、来年で36年になる。建設科1クラス、機械科3クラス、電気科2クラス、情報技術科1クラスの計7クラスであり、卒業生は県内を中心に全国で活躍している。昭和46年に土木科が設置され、平成7年土木科から建設科へ学科転換された。1年次では、共通履修する。2年次より専門科目を、土木コースと建築コースに分かれ学習する。卒業後の進路については、約60%が地元を中心に就職、残り40%が進学をしている。特徴的な授業としては、建設業界の中堅技術者として活躍させるため、3年の施工や課題研究で土木・建築施工技術者試験や測量士補試験を全員が受験し、多くの生徒が合格している。

○ 葛南工業高等学校

前身は市川市立工業学校として昭和18年4月開校し、昭和23年4月県立に移管し、定時制に建築科を新設している。昭和48年4月に千葉県立市川工業高等学校から千葉県下唯一の定時制に併置独立校として開校。現在は機械科2クラス、電気科と建築科がそれぞれ1クラスである。

定時制のため通常は修養年限が4年間であるが現在の社会情勢に合わせて教育課程を変更し、定通併修による3年修了での卒業、普通高校を卒業した社会人の受け入れ等、学びたい人が学びやすい学習環境作りに学校全体で努力している。

建築科では課題研究に卒業設計製図を実施。テーマは二級建築士試験の課題と同程度のもので、建築科職員全員が担当生徒を決め、指導にあたり、生徒の状況に応じたきめの細かい指導を心がけている。昨年の卒業設計では3年修了生が非常に意欲的であった。

今年3月初めて3年修了生が卒業し、工業系の大学、専門学校への入学、専門知識を生かした職業への就職等に進むことができた。

○ 千葉経済大学附属高等学校

昭和8年創立者の佐久間惣次郎が寒川高等女学校の校長として私学経営をはじめ。昭和29年千葉経済高等学校と改称され、その後昭和63年千葉経済大学の設置にともない平成5年千葉経済大学附属高等学校と改称される。現在は普通科28クラス、商業科17クラス、情報処理科7クラス、建築科3クラス、在籍数2032名である。(建築科は昭和36年に新設され、卒業生は2088名(内女子81名)である。)将来、建築部門の中堅技術者として専門的な業務に従事できる人材を育成しているが、ここ数年建築科でも進学が8割を越え、大学進学希望者ために、第3学年より英語・数学の選択科目を設け進学指導を強化している。

○ 敬愛学園高等学校

昭和28年千葉関東商業高等学校として発足し、昭和32年工業科を設置して、その名称を千葉工商高等学校と改称する。更に平成7年4月より現校名に改称し、現在は普通科、機械科、電気科、建築科、商業科の5科で生徒総数1570名を擁する。建築科は、昭和34年(1959)に設置され本年3月で40年を数え、4月より41年目のスタートを切ったところである。平成10年入学者より工業科は一括入学のシステムを導入し、1年次は工業科共通履修とし、2年次より各科(機械・電気・建築)を選択して専門教科の履修に努めている。現建築科は、2年生1クラス、3年生1クラスの編成で専門教科の建築設計製図及び実習に力をいれ、建築に関する美的感覚と創造力の養成に励んでいる。

15. 愛知県工業高等学校建築教育の現況

愛知県立碧南工業高等学校 建築科 石川 博武

愛知県の工業高等学校建築科の概要

愛知県内の建築系の学科を設置している学校は、県立6校、名古屋市立1校、私立1校の8校であります。各学校間のつながりは大変緊密であり、県工業教育研究会建築部会を中心として、年3回の研究会や見学会、幹事会を実施しております。県産業教育フェアにおいては、建築部会として発表する機会をもっています。また県工研総合競技大会において、建築製図コンクールを開催しています。さらに、県産業教育振興会主催『建築製図技能検定』を実施し、各校2・3年生の生徒ほとんどが参加し、製図技能の発展を目的に取り組んでいます。他にもできるだけいろんな資格を取得させるよう努力しております。さらに次の組織として、東海地区建築教育研究会があります。愛知、岐阜、三重、静岡の4県でもって、年2回、総会と研究大会を開催し、近隣の建築教育の動向を知る機会をもっています。そして、全国的な組織としてこの東日本建築教育研究会に参加させていただいております。愛知県の建築部会でとり上げてきた主な内容は、『課題研究の取り組みについて』『建築のCAD教育について』であり、11年度のテーマは『地域に密着した、特色ある建築教育について』であります。平成15年度より新学習指導要領が施行されるにあたり、各校どのように取り組むべきか、しかも各校がどのような特色を出していくか考えていかなければなりません。

愛知県はこのところ『愛知万博』『中部国際空港』と大きなプロジェクトが目白押しであります。このチャンスに、各校建築科がどのように関わり合っていけるのか注目しております。そして21世紀の建築教育をいかに進めるのか重大な時期にさしかかっていると考えております。最後に県下の建築科を設置している工業高校を紹介させていただきます。

○県立愛知工業高校（全日制・定時制）（ ）内はクラス数

明治36年創立、昭和16年土木建築科設置、電子機械（2）電気（1）情報技術（1）建築（1）土木（1）化学工業（1）デザイン（1）。平成12年に創立100周年を迎える伝統のある工業高校であります。（定時制）大正7年創立、昭和23年建築科設置、電子機械（1）電気（1）機械（1）情報技術（1）建築（1）であります。

○県立一宮工業高校（全日制）

昭和38年創立、機械（3）電気（2）建築（1）土木（1）。人口27万人の一宮市にあり、繊維の町として知られており、学校周辺は、閑静な住宅街です。本校の教育目標は、「社会の使命感にめざめ、心身共に健康で豊かな教養と人間性をもち、勤労意欲に燃え調和のとれた有能な工業人を育成する。」であります。

○県立豊橋工業高校（全日制）

昭和19年創立、昭和21年建築科設置、機械（2）電気（2）電子工学（1）建築（1）土木（1）繊維工学（1）。愛知県の東、人口約36万人の豊橋市にある唯一の工業高校であります。校訓は「切磋琢磨」。平成5年に創立50周年を迎え、記念として玄関前に「からくり時計」が同窓会をはじめとする諸団体より寄贈されました。

○県立半田工業高校（全日制）

昭和38年創立、昭和49年建築科設置。電子機械（2）、電気（2）、建築（1）、土木（1）。知多半島のほぼ中央に位置し、人口11万人の半田市にあります。校訓「人となれ」（人となり、たくみのわざを身にそなえ、とわにつくさん人の世のため）であります。選択科目を多くとり入れ、進学希望者にも力を入れております。

○県立碧南工業高校（全日制）

昭和48年創立、機械（2）電子工学（2）建築（1）環境工学（1）。愛知県の南三河湾に接し、人口約7万人の碧南市にあり、地場産業は瓦（三州瓦）であり、そして自動車関連の工場が多いところであります。校訓は「人成って技育つ」であります。アメリカのエドモンド市「ウッドウェイ高校」と姉妹高を結び、国際交流を行っております。

○県立佐織工業高校（全日制）

昭和51年創立、昭和52年建築科設置、機械（1）、電子工学（1）、建築（1）、繊維工業（1）。愛知県西部、海部郡佐織町にあり、周辺にはまだ田園地帯が広がり、静かな町であります。校訓は「活（いかす）」（物をいかし、人をいかし、己をいかす）であります。平成10年より、地元の佐織町農業物品評会に、住宅のペーパークラフトの体験コーナーを開き、地元の人との交流を深めております。

○名古屋市立工芸高校（全日制）

大正6年創立、大正11年建築科設置。平成元年建築システム科に変更。電子機械（2）、情報（1）、建築システム（1）、都市システム（1）、デザイン（1）、グラフィックアーツ（1）、インテリア（1）。名古屋の東部に位置し、建築科の創立としては、公立では一番伝統があります。特に、設計、デザインに力を入れております。

○私立名古屋工業高校（全日制）

大正9年創立、大正10年建築科設置。機械（5）、電気（2）、情報技術（2）、建築（2）、土木（1）。名古屋のほぼ中央にあり、建築科創立では一番歴史のある学校であります。「校訓」は①心身の健全、②着実な修学、③礼節を学ぶとし、社会の発展に貢献できる中堅技術者の育成を目指し、心・技・体の調和のとれた技術者の育成に努めています。郊外に広大な永和台グラウンドを有し、体育館、研修センターを設けて教育環境を整備しました。

16. 事務局からの報告・ニュース

1 事務局交代

今年度から事務局が東京都立墨田工業高等学校に移りました。前事務局を担当された蔵前工業高校の先生方3年間ご苦勞様でした。事務局担当期間2年目の平成12年度は本研究会50周年を迎える大切な時期でもあり、その責務の重さを実感しております。微力ながら事務局として最大の努力をするつもりでおりますので、会員校の皆様におかれましてもご協力のほどよろしく願いいたします。

2 第49回大会

平成11年度（第49回）の総会・研究協議会が秋田市で101校156名の参加を得、盛大に開催されました。第1日目は秋田市内のホテルにて総会・講演・分科会を、第2日目は研究発表、さらに午後からは角館の武家屋敷などを研究視察しました。それぞれが充実した内容で参加された先生方は多くのことを得て、各所属校での建築教育に役立てていただけたことと思います。大会の運営にあたられ実行委員長三浦春夫先生・事務局長高橋義則先生をはじめ秋田県の先生方本当にありがとうございました。

また、秋田大会事務局より本部事務局へ寄付金として20万円をいただきましたので、ここに御礼とともに会員の皆様にご報告いたします。

来年度は50周年記念大会（栃木県）です。多くの先生方の参加を期待しております。

3 夏期研究協議会・特別講習

平成11年度の夏期研究協議会は、計画分科会の主催で7月23日・24日鹿島建設・蔵前工業高校をメイン会場に江戸東京博物館や浅草・墨田川・浜離宮見学と多彩の内容で実施され多くの先生方の参加をいただきました。

また、今年度は特別講習という形でJW-CADの実技講習会を蔵前工業高校を会場に7月27日・28日の両日に渡って開催されました。これは昨年度の製図分科会主催の夏期研究協議会が好評で再度の開催要望に応える形で今回特別の企画として組まれました。

4 新学習指導要領

2002年度からの学校週5日制をにらんだ「卒業74単位以上、専門科目25単位以上、原則履修科目：工業技術基礎・課題研究の2科目、学校設定科目」という新学習指導要領が発表され、各校とも来年度からの移行期間に向けて取り組みが始まることと思います。

本研究会では、全国工業高等学校長協会の依頼を受けて本年度中に教育課程の調査の実施を予定しています。その際には各校の先生方にご協力をよろしく願いいたします。

5 会員校動静

1校増、1校減で会員校数は154校と変動はありません。

新規会員校及び退会校は下記のとおりです。

- 1) 新規校 青森県 光星学院高等学校
- 2) 退会校 岐阜県立岐阜総合高等学校

6 名簿訂正（名簿の取り扱いにはくれぐれもご注意ください）

会員名簿「P3 平成11年度役員名簿」に誤植がありましたので、訂正をお願いいたします。

常任理事 稲葉一八（校長・春日井工高→校長・岡崎工高）

7 年会費納入方法

事務局では年度当初に各県で共通すると思われる書類をお送りしておりますが、近年事情が異なる場合が多々出ております。もし書式の不对応や不足書類等ありましたら事務局会計まで直接連絡をお願いいたします。

8 「賛助会員」制度

本研究会の活動を活発に推進するためには経済的裏付けが必要です。会員校からの会費に加えて、賛助会員の制度が会則にあり外部よりの資金的援助をお願いしております。より多くの賛助会員を得ることが今後の本研究会の発展にも大切なこととしますので、各校でもご紹介くださるようお願いいたします。会費については1口10,000円で1口以上となっています。

平成11年度賛助会費を納入いただいたのは次のとおりです。

- | | |
|--------------|-------------|
| ●建築資料研究社 | ●東京デザイン専門学校 |
| ●建築施工管理技術研究会 | ●東京建築専門学校 |
| ●(社)東京建設業協会 | ●中央工学校 |
| ●(株)総合資格 | |

なお、賛助会費は製図コンクールの運営費等に活用させていただいています。関係各位に厚く御礼申しあげます。

☆全国高等学校建築教育連絡協議会より

今年度より全国の事務局も蔵前工業高校から墨田工業高校に移りました。

(事務局)

あとがき

おかげ様にて「建築教育ニュース」1999年号ができました。

教育活動にお忙しい中で、ご執筆いただきました先生方有り難うございました。

1999. 11

編集委員会

編 集	編集委員会	古賀昌之(墨田工)	遠藤 勇(日工大付東京工)
		大間俊彦(関東第一)	武田明広(市川工)
		伊藤和生(葛西工)	鈴木 健(田無工)
発 行	東日本建築教育研究会	(代 表 稲見 辰夫)	
事 務 局	〒135-0004 東京都江東区森下5-1-7	TEL 03-3631-4928	
	都立 墨田工業高等学校	(事務局長 小沢 宏)	
編集事務局	〒188-0013 東京都田無市向台町1-9-1	TEL 0424-64-2225	
	都立 田無工業高等学校	(鈴木 健)	